

青森県立美術館

年報

平成21年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 024 特別展
- 031 常設展

学芸

- 038 美術資料収集
- 039 美術資料貸出状況
- 040 作品保存修復

教育普及

- 042 普及プログラム
- 045 スクールプログラム
- 047 サポートスタッフ
- 048 メンバーシッププログラム

パフォーマンスアート

- 050 演劇
- 052 ダンス
- 054 音楽
- 058 映画

サービス等

- 060 貸館
- 062 図書室
- 064 キッズルーム・フリーアトリエ
- 065 博物館実習
- 066 情報システム

資料

- 068 広聴
- 069 入館者数
- 070 運営予算・決算
- 071 組織
- 072 関係規程等
- 076 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置 (青木淳氏、奈良美智氏、逢坂恵理子氏 委員就任)
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館(館長 三村 申吾)
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録(青森県教育委員会告示第11号)
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置 (塚原隆市氏、鷹山ひばり氏、手塚治氏、風晴史子氏、佐々木健氏、田中博氏、本多信雄氏 委員就任)
2007年11月10日	「美術館ユビキタスシステム」国内の美術館・博物館の中で初導入
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任

展覧会

企画展

ウィーン展

馬場のぼる展

ラブラブショー展

特別展

太宰治展

常設展

春のコレクション展

夏のコレクション展

秋のコレクション展

冬のコレクション展

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展

開催概要

会期：2009年4月11日(土) - 6月14日(日)
(5月11日休館)

開催日数：64日間

主催：ウィーン美術史美術館展実行委員会(青森県立美術館、
東奥日報社、青森放送)

後援：オーストリア大使館、青森県教育委員会

※日本-オーストリア交流年2009 認定事業

協賛：日本写真印刷

協力：オーストリア航空、Lufthansa Cargo AG

観覧料：

一般 1,200円(1,000円)、高大生 800円(700円)、小
中生 300円(200円)

※()内は前売り券及び20名以上の団体料金

※アレコホール以外の常設展観覧料は含まない。

入場者数

36,886人

展覧会

監修：カール・シュッツ(ウィーン美術史美術館副館長、絵画部長)
木島俊介(共立女子大学教授)

企画・構成：国立新美術館、宮城県美術館、兵庫県美術館、青
森県立美術館、東京新聞

海外コーディネイト：ヴァルター・ウルリッヒ

巡回：国立新美術館(東京)

2008年7月2日(水) - 9月15日(月・祝)

宮城県美術館(仙台)

2008年10月7日(火) - 12月14日(日)

兵庫県立美術館(神戸)

2009年1月6日(火) - 3月29日(日)

関連企画

ピアノコンサート

県立美術館アレコホール 演奏者：村田恵理氏

第1回 4月11日(土) 18:00 -

ムソルグスキー『展覧会の絵』他

第2回 5月23日(土) 18:00 -

ラヴェル『亡き王女のためのパヴァーヌ』他

※展覧会チケットにて入場可能

講演会「剥ぎかけのレモンと倒れたグラス-静物画を読み解く-

県立美術館シアター 講師：山形大学教授 元木幸一氏

4月29日(水・祝) 13:30 - 15:00

※入場無料

ギャラリー・トーク

展覧会担当学芸員が展示室を巡りながら主な展示作品を30分
程度で解説

展覧会期間中の土曜、日曜、及び5月4、5、6日

14:00 - 計23回

※展覧会チケットにて参加可能

音声ガイド貸出(巡回会場共通)

解説 29件(プロローグ、エピローグを含む)

※料金500円

ウィーンゆかりの映画上映会

県立美術館シアター

4月19日(日) 『第三の男』『野ばら』

4月26日(日) 『会議は踊る』『未完成交響曲』

5月9日(土) 『第三の男』『グレート・ワルツ』

5月10日(日) 『会議は踊る』『たそがれの維納』

※入場無料

カタログ

仕様：29.0×23.0×2.1cm、208頁

編集：国立新美術館、宮城県美術館、兵庫県美術館、青森県
立美術館、東京新聞

制作：アイメックス・ファインアート

発行：東京新聞

内容：

○論文

・カール・シュッツ

「西洋絵画における静物画の歴史——古代ギリシャ・ローマ時代
から19世紀まで」

・木島俊介

「静物画の生成と『時禱伝』の伝統」

○作品カタログ

第1章 市場・台所・虚栄(ヴァニタス)の静物

I 市場と台所の静物画

II 自然描写と美術品陳列室画

III ヴァニタスの静物画

第2章 狩猟・果実・豪華な品々・花の静物

IV 狩猟の静物画

V 食卓の静物画

VI 果実と豪華な静物画

VII 花の静物画

第3章 宗教・季節・自然と静物

VIII 宗教的静物画

IX 季節、四大元素、その他の寓意

第4章 風俗・肖像と静物

X 風俗画

XI 肖像画と静物画、アトリビュートとしての静物

○参考文献

○作品別出品リスト

執筆者

カール・シュッツ、アレクサンダー・ヴィード、ヴォルフガング・プロハスカ、ゲルリンデ・グルーバー、グドルン・スヴォボダ、フランチェスカ・デル・トッレ、ザビーネ・ベノー、ゲオルグ・レヒナー、イナ・テンプファ

翻訳者

木川弘美(清泉女子大学専任講師)、山下敦(共立女子大学文芸学部教授)、岡本弘毅(兵庫県立美術館)、吉田朋子(兵庫県立美術館)、菅野晶(青森県立美術館)



ポスター



展示風景

スペインやオーストリアをはじめとするヨーロッパ各国の王家と深いつながりを誇ったハプスブルク家のコレクションを受け継ぐ世界屈指の美術館の豊富なコレクションから、「静物画の秘密」をキーワードに75点を展示した。

西洋美術において「静物画」という言葉が一般的になるのは17世紀以降だが、静物のモチーフ自体はギリシャ・ローマ時代から古い伝統を持ち、中世以降の細部まで精密に描き込まれた宗教画などにおいても独特の存在感を放っている。本展では、西洋における静物画の歴史について、日本の伝統とはまた異なる文化的背景への理解を深められるよう、西洋絵画の伝統である迫真の描写技法に注目するとともに、個々の静物に隠された象徴的な意味を解き明かすなど、展示構成や解説パネル、音声ガイド、ギャラリー・トークなどに工夫を凝らした。

当館において西洋の古典絵画を展示する初めての本格的な展覧会だったが、内容が難しく感じられないよう、わかりやすい

展示・解説を心がけ、日本初公開となったディエゴ・ベラスケスの『薔薇色の衣裳のマルガリータ王女』を中心に、入場者からも非常に好評を得た。

また、保存環境を守り、作品の安全を保ちながら入場者に作品保護への理解を求めするため、準備段階及び開催期間を通して随時パネルの設置や監視員への現場研修会などを行った。来館者アンケートなどから、徐々に入場者の理解も深まったことがうかがえる。

出品作品

第1章 市場・台所・虚栄（ヴァニタス）の静物

1
マールテン・ファン・クレーヴ
解体された雄牛
1566
油彩・オーク板
680×535

2
ヤン・バプティスト・サイーフェ（父）
果物市場（9月-10月）
1590
油彩・キャンヴァス
1080×2200

3
ヤン・バプティスト・サイーフェ（父）
肉市場（11月-12月）
1590
油彩・キャンヴァス
1110×2135

4
フレデリク・ファン・ファルケンボルファー
世の工房
花市場（春）
1610頃
油彩・キャンヴァス
1200×2100

5
フレデリク・ファン・ファルケンボルファー
世の工房
果物市場（夏）
1610頃
油彩・キャンヴァス
1235×2085

6
ローベルト・ファン・デン・フーケ
日用品のある静物
1645
油彩・オーク板
300×230

7
ヤーコブ・オホテルフェルト
魚市場
1668 / 1669頃
油彩・キャンヴァス
850×735

8
フランドルの画家に帰属
巻貝と二枚貝のある静物
17世紀後半
油彩・キャンヴァス
885×1560

9
ゼバスティアン・シュトスコプフ（？）
魚のある静物
1650頃
油彩・キャンヴァス
650×350

10
チェザーレ・ダンディーニ
巻き薬酒瓶のある静物
1640頃
油彩・楓材
41.0×32.5

11
ピーテル・クラスゾーン
ヴァニタス
1656
油彩・オーク板
39.5×60.5

12
ピーテル・ヘリッツゾーン・ファン・ルス
トラーテン
ヴァニタス
17世紀後半
油彩・キャンヴァス
58.0×75.0

13
アントニオ・デ・ベレダ・イ・サルガド
静物：虚栄（ヴァニタス）
1634頃
油彩・キャンヴァス
139.5×174.0

第2章 狩猟・果実・豪華な品々・花の静物

14
ヤン・フェイト
死んだ野鳥
1641以降
油彩・キャンヴァス
49.0×68.0

15
フィリップ・フェルディナント・デ・ハミルトン
豹と禿鷹
1722
油彩・キャンヴァス
88.0×120.0

16
ヨーハネス・レーマンス周辺の画家
狩猟用具
1660頃
油彩・キャンヴァス
117.5×167.3

17
ダーフィット・デ・コーニンクに帰属
死んだ野鴨
1696頃
油彩・キャンヴァス
55.0×75.0

18
ヤン・ウェーニクス
死んだ野兎
1690
油彩・キャンヴァス
113.5×94.5

19
フランツ・ヴェルナー・タム
猟犬と獲物
1706
油彩・キャンヴァス
136.5×185.0

20
ウィレム・クラスゾーン・ヘーダ
蓋付高杯のある朝食図
1634
油彩・板
60.4×49.0

21
コルネーリス・デ・ヘーム
朝食図
1660 - 69頃
油彩・オーク板
34.0×41.5

22
クリスティアン・ストリーブ
朝食図
17世紀第3 四半世紀
油彩・キャンヴァス
78.5×60.8

23
バルトロメオ・ベッテラ
楽器、楽譜、書物のある静物
17世紀後半
油彩・キャンヴァス
94.0×131.0

24
エヴァリスタ・バスケニス
静物：楽器、地球儀、天球儀
17世紀
油彩・キャンヴァス
78.0×118.0

25
ジュゼッペ・ヴォロ、通称ヴィンチェンツィーノ
果物のある静物
1700頃
油彩・キャンヴァス
92.5×69.0

26
ロンバルディア派、ジャコモ・チェルテーイに帰属
籠入り瓶のある果物の静物
1750頃（？）
油彩・キャンヴァス
74.5×98.0

27
ヨーリス・デ・ソン周辺の画家
果物のある静物
1650頃
油彩・キャンヴァス
81.0×59.5

28
アブラーハム・ファン・ペイェレン
魚と蟹のある静物
17世紀第3 四半世紀
油彩・キャンヴァス
61.0×74.5

29
カレル・ファン・フォーヘラールに帰属
果物のある静物
17世紀第4 四半世紀
油彩・キャンヴァス
112.0×84.2

30
ユリアーン・ファン・ストレーク
朝鳥貝の高杯と生姜壺のある静物
17世紀第3 四半世紀
油彩・キャンヴァス
49.5×41.5

31
オランダの画家に帰属
オマール海老のある静物
17世紀後半
油彩・キャンヴァス
48.0×41.5

32
ゴットフリート・リバルト
果物のある静物
1655 / 60頃
油彩・キャンヴァス
95.0×125.0

33
ゲオルク・フレーゲルの工房
果物、ワイングラス、花瓶のある静物
1614以降
油彩・キャンヴァス
41.5×49.2

34
アンブロシウス・ボスハールト（父）
花束
1609
油彩・マホガニー板（？）
50.2×35.3

35
ヤン・ブリュージュ（父）
青い花瓶の花束
1608頃
油彩・オーク板
66.0×50.5

36
マルゲリータ・カッフィあるいはエリザベッタ・マルキオーニ
花籠と鶯（ひわ）
17世紀後半
油彩・キャンヴァス
45.0×57.0

37
ガスバレ・ロベス、通称ロベス・デイ・フィオーリ（「花のロベス」）
泉の上で紋章を持つブット像のある庭園風景と花
1720 頃
油彩・銅板
26.0×45.0

38
ガスバレ・ロベス、通称ロベス・デイ・フィオーリ（「花のロベス」）
戦士の胸像のある庭園風景と花
1720 頃
油彩・銅板
26.0×45.0

39
ヤン・アントン・ファン・デル・バーレン
ガラス器の薔薇
1659 以降
油彩・羊皮紙
40.0×30.0

40
ヤン・ファン・デン・ヘッケ
花束
1650 頃
油彩・キャンヴァス
40.0×30.0

41
ヤン・ファン・デン・ヘッケ
花瓶の花とグラフェリンゲンの包囲戦
1652
油彩・キャンヴァス
65.8×38.7

42
ヤン・ファン・デン・ヘッケに帰属
花籠
17 世紀
油彩・キャンヴァス
35.0×49.0

43
ヨーハン・ミヒャエル・ブレトシュナイダー
四季の花束
17 世紀後半
油彩・キャンヴァス
69.0×52.0

第3章 宗教・季節・自然と静物

44
ヤン・アントン・ファン・デル・バーレン
花環で飾られた石造りの壁龕の聖体顯示台
1650 / 59 頃
油彩・キャンヴァス
96.0×67.0

45
ヤン・アントン・ファン・デル・バーレン
御公現の寓意
1650 / 59 頃
油彩・キャンヴァス
71.0×74.0

46
ネーデルラントの画家に帰属
春（愛）
1600 頃
油彩・キャンヴァス
120.0×240.0

47
ヤン・ブリュエゲル（父）
ヘンドリック・ファン・バーレン
大地女神ケレスと四大元素
1604
油彩・銅板
42.0×71.0

48
レアンドロ・ダ・ボンテ、通称レアンドロ・パッサーノ
6 月
1580 代
油彩・キャンヴァス
145.0×216.0

49
フランチェスコ・デ・ローザ、通称パチェーコ・デ・ローザ
花神フローラ
1645 / 50 頃
油彩・キャンヴァス
103.5×86.0

50
ピーテル・ファン・アフント
ヤン・ブリュエゲル（子）
庭園の花神フローラ
1730 代
油彩・銅板
47.8×70.4

51
フェルディナント・ファン・ケッセル
ヨーロッパ
1689
油彩・キャンヴァス
52.0×72.0（中央画面）

52
ヨーハン・ケーニヒ
春（庭園の宴）
17 世紀前半
油彩・銅板
19.0×28.0

53
ヨーハン・ケーニヒ
夏（小麦の収穫）
17 世紀前半
油彩・銅板
19.0×28.0

54
ヨーハン・ケーニヒ
秋（葡萄酒造り）
17 世紀前半
油彩・銅板
19.0×28.0

55
ヨーハン・ケーニヒ
冬（蕪の皮剥きと亜麻糸造り）
17 世紀前半
油彩・銅板
19.0×28.0

第4章 風俗・肖像と静物

56
ヤン・ブリュエゲル（父）
小作人見舞い
1597 頃
油彩・銅板
27.0×36.0

57
ペーテル・パウル・ルーベンス
チモーネとエフィジェニア
1617 頃
油彩・キャンヴァス
208.0×282.0

58
ヤン・シーベレヒツ
浅瀬
1664 / 1665 頃
油彩・キャンヴァス
115.0×90.0

59
ダーフィット・テニールス（子）
老人と使用人の女
1672
油彩・キャンヴァス
45.0×72.5

60
ダーフィット・テニールス（子）
ソーセージ作り
1651 以前（？）
油彩・キャンヴァス
54.5×64.5

61
ヒリス・ファン・ティルボルフ
農民の食堂
17 世紀
油彩・キャンヴァス
84.0×115.0

62
ヤン・ステーン
逆さまの世界
1663
油彩・キャンヴァス
105.0×145.0

63
ヤン・ステーン
農民の婚礼（欺かれた花婿）
1670 頃
油彩・キャンヴァス
57.0×68.0

64
ヘーラルト・ダウ
医師
1653
油彩・オーク板
49.3×36.6

65
ヘーラルト・ダウ
花に水をやる窓辺の老婦人
1660 / 65 頃
油彩・オーク板
28.3×22.8

66
コルネーリス・サフトレーフェン
掃除女と山羊のいる納屋
1630 / 35 頃
油彩・板
40.8×56.0

67
マルティーン・ディヒトル
台所道具を磨く女
1665 頃
油彩・キャンヴァス
80.0×100.0

68
マルティーン・ディヒトル
酒を飲む二人の男
1665
油彩・キャンヴァス
80.0×100.0

69
アントニオ・ブーガ
オレンジの花を持って笑う男
1640 頃
油彩・キャンヴァス
83.0×64.0

70
ティベリオ・ティネリに帰属
貴婦人の肖像
1620 / 25 頃
油彩・キャンヴァス
205.0×115.0

71
ヤン・ファン・デン・ヘッケ
果実の花綵で飾られた女性像
1645 / 1650 頃
油彩・キャンヴァス
58.0×42.0

72
ヤン・リーフェンス
ヤン・ファン・デン・ヘッケ
花環で飾られた若い男の肖像
1642 / 1644 頃
油彩・オーク板
50.5×46.0

73
フェルディナント・ボル
リラ・ダ・ガンバを持つ女
1653
油彩・キャンヴァス
111.0×87.0

74
オットマル・エリガー（子）
高杯を持つ窓辺の女
1714
油彩・キャンヴァス
35.5×26.3

75
ディエゴ・ロドリゲス・シルバ・イ・ペラ
スケス
薔薇色の衣裳のマルガリータ女王
1653 / 54 頃
油彩・キャンヴァス
128.5×100.0

主なマスコミ報道

新聞

東奥日報

4月7日（火）
11日から「静物画の秘密展」[マルガリータ女王]登場

4月11日（土）
近代ヨーロッパの輝き 名画で「ウィーン美術史美術館所蔵展」関係者祝福、きょう開幕

4月12日（日）
名画の数々 来場者を魅了 ウィーン美術史美術館展 県立美術館で開幕

4月26日（日）
（催事案内）29日に県立美術館で美術講座

4月27日（月）
入場5千人を突破 ウィーン美術史美術館展 対馬さん（青森）に記念品

4月28日（火）
ハプスブルク家の静物画 ウィーン美術史美術館所蔵展6月14日まで 75点、日本初公開作も

4月28日（火） 夕刊
（読者投稿）問いかけてくる静物画、人物画

5月4日（月）
静物画の背景読み解く ウィーン美術史美術館展 県立美術館で関連講座

5月5日（火）
入場者1万人 ウィーン美術史美術館展 西山さん（八戸）に記念図録

5月16日（土）
（青森県庁 催事案内）ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展

5月22日（金）
（コラム）天地人

5月22日（金） 夕刊
美術展ガイド「ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展」

5月23日（土）
入場2万人突破 ウィーン美術史美術館展

5月30日（土）
（寄稿）県立美術館「静物画の秘密展」心の窓を開く感動 弘前大学准教授 足達薫

6月5日（金） 夕刊
（読者投稿）静物画の秘密展 絵の中に動き

6月9日（火）
入場者3万人 ウィーン美術史美術館展

読書新聞

4月8日（水）
（催事案内）静物画の秘密展ピアノコンサート ウィーン美術史美術館所蔵静物画の秘密展

4月22日（水）
（催事案内）講演会「剥きかけのレモンと倒れたグラス〜静物画を読み解く〜」

デーリー東北

4月9日（木）
ウィーン美術史美術館所蔵静物画の秘密展」（青森）

5月16日（土）
（青森県庁 催事案内）ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展

陸奥新報

5月15日（金）
（コラム）2つのマルガリータ 青森と東京の企画展

5月16日（土）
（青森県庁 催事案内）ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展

6月21日（日）
（コラム）続・他人の物差し 主婦を論じむ

TV

RAB（青森放送）

夕方の県内ニュース（ニュースリーダー）等で随時紹介
「実行委員会開催」「マルガリータ女王展示」「オープニングレセプション」「展覧会初日」「入場者5千人」「入場者1万人」「入場者2万人」「入場者3万人」等
※5月上旬、GWに合わせて5回に渡り特集コーナーを放映
※他にTVCM随時放映

青森ケーブルTV

4月24日（金）
イベント紹介特集
※終日数回繰り返し放映

馬場のぼる展“11ぴきのねこ”がやってくる ニャゴ!ニャゴ!ニャゴ!

開催概要

会期：2009年7月29日(水)－9月6日(日)

開催日数：40日間

主催：馬場のぼる展実行委員会(青森県立美術館、青森朝日放送、デーリー東北新聞社、陸奥新報社)

特別協力：三戸町、株式会社こぐま社

協力：青森県立図書館、青森市民図書館

後援：青森県教育委員会、青森県保育連合会、青森県私立幼稚園連合会、青森県PTA連合会

観覧料：

一般 800円(600円)、高大生 600円(500円)、小中生 200円(100円)

※()内は前売り券及び20名以上の団体料金

※アレコホール以外の常設展観覧料は含まない。

※こども美術館で開催期間中(7月29日－8月23日)は、小、中学生観覧無料

入場者数

25,464人

関連企画

プレワークショップ「くるくる楽しい!ニャゴニャゴ風車!!」

日時：7月25日(土)、26日(日) 10:00－15:00

会場：コミュニティギャラリー

協力：青森中央短期大学幼児保育学科

夏休みこどもギャラリーツアー

日時：7月29日(水)－8月23日(日)の毎土曜日・日曜日

各11:00－/15:00－

会場：企画展示室内

「11ぴきのねこ」ドラマリーディング

日時：8月2日(日)、9日(日)、22日(土)

各13:00－/15:00－

会場：企画展示室A

監修：長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

出演：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

記念講演会「11ぴきのねこと馬場のぼる」

日時：8月15日(土) 13:30－15:00

会場：シアター

講師：佐藤英和(株式会社こぐま社会長)

ワークショップ「だれでもかけるマンガの描き方とおはなし」

日時：8月16日(日) 13:30－15:00

会場：ワークショップA

講師：多田ヒロシ(漫画家・絵本作家)

ワークショップ「蛍光ペンで絵本をマンガにする」

日時：8月29日(土) 13:00－16:00

会場：ワークショップA

講師：横山裕一(漫画家)

カタログ

仕様：21.0×29.7×1.2cm、

160頁(モノクロ80頁/カラー80頁)

構成・編：板倉容子

資料編纂：工藤健志

編集：高橋賢

デザイン：大西隆介・五十嵐傑(direction Q)

発行：馬場のぼる展実行委員会

内容：

謝辞

ごあいさつ

第1部 絵本のしごと

・佐藤英和「馬場のぼるの絵本」

第2部 漫画のしごと

・多田ヒロシ「馬場のぼるの漫画」

第3部 馬場のぼるの仕事－《資料篇》－

・豊田きいち「“ばばネコ”を、禁じ手にせよ－序説・馬場のぼる－」

・板倉容子「馬場のぼるがいた」

・馬場のぼる略年譜

・目録 馬場のぼる主要作品・主要参考文献

・掲載作品一覧



ポスター



展示風景

青森県三戸町出身の馬場のぼる（1927-2001）は、戦後日本の漫画界、絵本界で活躍した青森県を代表する漫画家である。とりわけ1967年に出版され、大ヒットした絵本『11 びきのねこ』は、その後シリーズ化され、現在までにシリーズ6冊で380万部以上のロングセラーを記録している。本展は、未公開作品を含む絵本原画、漫画原稿および関連資料により、馬場のぼる作品の魅力と特質について考える初の総合的な回顧展であった。約350点に及ぶ作品資料を、「漫画の世界」「絵本の世界」「ねこの世界」「思い出あれこれ」の4コーナーに分けて展示を構成。通常の美術作品とは異なり、絵のみならずストーリーも含めての馬場作品であることから、展示の随所において絵本、漫画を実際に手にとって読むことができるような仕掛けを施した。また、展覧会鑑賞者として若い子どもの割合が大きいことが想定されたことから、展示室一室をワークショップスペースとして開放し、子ども達が「11 びきのねこマラソン大会」のスタンプを押したり、ぬり絵をする

など自由に活動をおこなうことができる創作スペースを設けた。

馬場のぼるは、これまで『11 びきのねこ』の作家としては良く知られていたが、かつて人気漫画家として活躍していたことはあまり知られておらず、現在では馬場の漫画作品を目にすることも困難な状況となっている。本展は、アトリエに残されていた当時の貴重な漫画資料等も含めたかたちで活動の全貌を明らかにしながら、馬場作品の魅力を広く知ってもらうことを目指したものであった。来館者の大半は「11 びきのねこ」ファンであったが、本展を通して、より深く馬場作品に対する興味を抱いたという意見が寄せられるなど、馬場のぼるという作家の作品世界を広く知ってもらうことができた。また、当初の予想より来館者の年齢層は広く、また、来館者の中には会期中に複数回来館するリピーターも多く見受けられた。今回の展覧会を機に、今後も絵本、漫画の両分野において馬場のぼるの作品に関する調査・研究が進むことが期待される。

出品作品

漫画のせかい

1

馬場のぼる
『ポストくん』No.33 原画
全8頁
1953（昭和28）
紙・墨、水彩
34.3×25.0
個人蔵

2

馬場のぼる
『ポストくん』No.34 原画
全5頁
1953（昭和28）
紙・墨、水彩
34.3×25.0
個人蔵

3

馬場のぼる
『ポストくん』No.35 原画
全5頁
1953（昭和28）
紙・墨等
39.5×27.3
個人蔵

4

馬場のぼる
『ポストくん』No.36 原画
全4頁
1953（昭和28）
紙・墨等
34.3×24.8
個人蔵

5

馬場のぼる
『ブウタン』No.1 原画
全7頁
1954（昭和29）
紙・墨、水彩等
32.2×21.5
個人蔵

6

馬場のぼる
『ブウタン』No.2 原画
全8頁
1954（昭和29）
紙・墨、水彩等
32.2×21.5
個人蔵

7

馬場のぼる
『ブウタン』No.3 原画
全7頁
1954（昭和29）
紙・墨、水彩等
32.2×21.5
個人蔵

8

馬場のぼる
『ブウタン』No.16 原画
全7頁
1955（昭和30）
紙・墨、水彩等
30.5×21.5
個人蔵

9

馬場のぼる
『ブウタン』No.17 原画
全7頁
1955（昭和30）
紙・墨、水彩等
30.3×21.0
個人蔵

10

馬場のぼる
『ブウタン』No.18 原画
全7頁
1955（昭和30）
紙・墨、水彩等
32.3×22.5
個人蔵

11

馬場のぼる
『まんが太閤記 藤吉郎編』原画
25頁—34頁
1954（昭和29）
紙・墨、鉛筆等
27.0×19.0
個人蔵

12

馬場のぼる
『ダブダブのダブちゃん』1 原画
全5頁
1957（昭和32）
紙・墨
27.3×19.8
個人蔵

13

馬場のぼる
『ダブダブのダブちゃん』2 原画
全5頁
1957（昭和32）
紙・墨
27.3×19.8
個人蔵

14

馬場のぼる
『ダブダブのダブちゃん』4 原画
全5頁
1957（昭和32）
紙・墨
27.3×19.8
個人蔵

15

馬場のぼる
『ダブダブのダブちゃん』6 原画
全5頁
1957（昭和32）
紙・墨
27.3×19.8
個人蔵

17

馬場のぼる
『たらふくまんま』1 原画
全6頁
1958（昭和33）
紙・墨
個人蔵

18

馬場のぼる
『たらふくまんま』5 原画
全6頁
1958（昭和33）
紙・墨、水彩
28.5×19.3
個人蔵

19

馬場のぼる
『たらふくまんま』6 原画
全6頁
1958（昭和33）
紙・墨、水彩
28.5×19.3
個人蔵

20

馬場のぼる
『ウサギ汁大作戦』原画
1頁—16頁
1974（昭和49）
紙・墨
39.5×27.2
個人蔵

21

馬場のぼる
『柿の木村のぬし』原画
全12頁
1965（昭和40）
紙・墨
39.5×27.4
個人蔵

22

馬場のぼる
『殿様とダイコン』原画
全11頁
1966（昭和41）
紙・墨
39.5×27.4
個人蔵

23

馬場のぼる
『ネコと私』原画
1966（昭和41）
紙・墨
38.0×27.0
個人蔵

24

馬場のぼる
『ネコと私』原画
1967（昭和42）
紙・墨
39.7×27.5
個人蔵

25

馬場のぼる
『ネコと私』原画
1968（昭和43）
紙・墨
40.0×27.3
個人蔵

26

馬場のぼる
『ネコと私』原画
1966（昭和41）
紙・墨
38.0×27.5
個人蔵

27

馬場のぼる
『こんにやく物語』第76話 原画
1970（昭和45）
紙・墨
39.5×27.2
個人蔵

28

馬場のぼる
『まっかな泥棒』第135話 原画
1968（昭和43）
紙・墨
40.0×27.5
個人蔵

29

馬場のぼる
『鬼婆』その118 原画
1978（昭和53）
紙・墨
39.5×27.3
個人蔵

30

馬場のぼる
『鬼婆』その174 原画
1983（昭和58）
紙・墨
39.5×27.4
個人蔵

31

馬場のぼる
『ろくさん天国』85回 原画
1969（昭和44）
紙・墨
27.4×12.5
個人蔵

32 馬場のぼる 『ろくさん天国』191回 原画 1969（昭和44） 紙・墨 27.4×12.5 個人蔵	40 馬場のぼる 『絵巻えほん 11 びきのねこマラソン大会』 ラフスケッチ 1984（昭和59） 紙・ボールペン 17.6×123.5 こぐま社蔵	48 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙描き分け原画 （薄緑版） 1976（昭和47） 紙・アイ刷り、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	55 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙校正刷り（黄色+薄緑+ベージュ版+ピンク版+コバルト+藤色版） 1976（昭和47） 紙・描き版、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵
33 馬場のぼる 『ろくさん天国』224回 原画 1969（昭和44） 紙・墨 27.4×12.5 個人蔵	41 馬場のぼる 『絵巻えほん 11 びきのねこマラソン大会』 アイデアスケッチ 1984（昭和59） 紙・ボールペン 18.0×50.0 こぐま社蔵	49 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙校正刷り（黄色+薄緑版） 1976（昭和47） 紙・描き版 38.5×54.2 こぐま社蔵	56 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』校正刷り 16頁-17頁、20頁-21頁、22頁-23頁、 24頁-25頁、32頁-33頁、38頁-39頁 1976（昭和47） 紙・描き版 39.5×54.3 こぐま社蔵
34 馬場のぼる 『ろくさん天国』253回 原画 1969（昭和44） 紙・墨 27.4×12.5 個人蔵	42 馬場のぼる 『11 びきのねことあほうどり』ラフスケッチ 1972（昭和47） 全21頁 紙・ボールペン 19.0×26.8 こぐま社蔵	50 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙描き分け原画 （ベージュ版） 1976（昭和47） 紙・アイ刷り、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	57 馬場のぼる 『11 びきのねこ ふくろのなか』校正刷り 8頁-9頁、16頁-17頁、18頁-19頁、 22頁-23頁、24頁-25頁、26頁-27頁 1982（昭和57） 紙・描き版 36.4×51.5 こぐま社蔵
35 馬場のぼる 『バクさん』1682 原画 1974（昭和49） 紙・墨 27.4×12.7 個人蔵	43 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙校正刷り 1976（昭和47） 紙・描き版 38.5×54.2 こぐま社蔵	51 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙校正刷り（黄色+薄緑+ベージュ版） 1976（昭和47） 紙・描き版、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	58 馬場のぼる 『11 びきのねことへんなねこ』校正刷り 4頁-5頁、6頁-7頁、8頁-9頁、34 頁-35頁、36頁-37頁、38頁-39頁 1989（平成元） 紙・描き版 33.5×45.0 こぐま社蔵
36 馬場のぼる 『バクさん』2891 原画 1974（昭和49） 紙・墨 27.4×12.7 個人蔵	44 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙主版原画 1976（昭和47） 紙・墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	52 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙描き分け原画 （ピンク版） 1976（昭和47） 紙・アイ刷り、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	59 馬場のぼる 『11 びきのねこ どころこ』校正刷り 10頁-11頁、20頁-21頁、26頁-27頁、 28頁-29頁、32頁-33頁、38頁-39頁 1996（平成8） 紙・描き版 32.6×43.6 こぐま社蔵
37 馬場のぼる 『バクさん』3431 原画 1978（昭和53） 紙・墨 27.4×13.3 個人蔵	45 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙主版アイ刷り 1976（昭和47） 紙・アイ刷り 38.5×54.2 こぐま社蔵	53 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙校正刷り（黄色+薄緑+ベージュ版+ピンク版） 1976（昭和47） 紙・描き版、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	60 馬場のぼる 『11 びきのねこ かるた』原画 1994（平成6） 紙・墨、水彩 各17.0×12.2 こぐま社蔵
38 馬場のぼる 『バクさん』3496 原画 1980（昭和55） 紙・墨 27.4×13.3 個人蔵	46 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙描き分け原画 （黄色版） 1976（昭和47） 紙・アイ刷り、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	54 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙描き分け原画 （コバルト+藤色版） 1976（昭和47） 紙・アイ刷り、墨 38.5×54.2 こぐま社蔵	61 馬場のぼる 『11 びきのねこ』（シリーズ6 巻完結記念） 1996（平成8） 27.5×38.5 紙・墨、水彩 こぐま社蔵
ねこのせかい			
39 馬場のぼる 『絵巻えほん 11 びきのねこマラソン大会』 原画 1984（昭和59） 紙・墨、水彩 45.3×43.0 こぐま社蔵	47 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』表紙校正刷り（黄色版） 1976（昭和47） 紙・描き版 38.5×54.2 こぐま社蔵		

62 馬場のぼる 『11 びきのねことあほうどり』(シリーズ6 巻完結記念) 1996 (平成8) 27.5×38.5 紙・墨、水彩 こぐま社蔵	69 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ここはなーんも釣れないヨ、わしが食べちゃったで。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.5×38.0 こぐま社蔵	76 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「なかなか見つ付けてくれない、いいオニ。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 37.7×56.8 こぐま社蔵	83 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ニャゴッ、もっとしっかりやらんかい。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.5×19.1 こぐま社蔵
63 馬場のぼる 『11 びきのねことぶた』(シリーズ6 巻完結記念) 1996 (平成8) 27.5×38.5 紙・墨、水彩 こぐま社蔵	70 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ねこたちよ よくきーけよ、やまねこにはなるなーよォー。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 36.5×51.5 こぐま社蔵	77 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ジャンジャカ ジャカジャカ、ニャゴニャゴニャー ニャゴニャゴニャー。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 38.1×56.3 こぐま社蔵	84 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「くじらも、ほにゅうるいのなかまなのだよ。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.5×19.1 こぐま社蔵
64 馬場のぼる 『11 びきのねこ ふくろのなか』(シリーズ6 巻完結記念) 1996 (平成8) 27.5×38.5 紙・墨、水彩 こぐま社蔵	71 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ヘー そうかア、きょうは父の日かア。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 32.0×46.7 こぐま社蔵	78 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ひまわり、みんなぼくたちのほうむいでる。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.1×18.8 こぐま社蔵	85 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ワインにはタイヤキがよく似合う。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 38.0×56.4 こぐま社蔵
65 馬場のぼる 『11 びきのねことへんなねこ』(シリーズ6 巻完結記念) 1996 (平成8) 27.5×38.5 紙・墨、水彩 こぐま社蔵	72 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ねこは、スペインの闘牛士のようにはいかないア、どうも。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 38.0×56.2 こぐま社蔵	79 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「わしゃ、うかれてるのではないゾ。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 37.9×28.2 こぐま社蔵	86 『11 びきのねこ』朗読映像 (上映時間 約14分) 朗読：馬場のぼる 製作：東宝
66 馬場のぼる 『11 びきのねこ だろんこ』(シリーズ6 巻完結記念) 1996 (平成8) 27.5×38.5 紙・墨、水彩 こぐま社蔵	73 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「インディアンうそつかない。ねこ、少しくそつく。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.0×19.0 こぐま社蔵	80 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「しゃぼん玉にもふたとおりあるの。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 38.0×28.3 こぐま社蔵	87 馬場のぼる 『きつね森の山男』特装版 全頁 1953 (昭和28) 紙・描き版 34.5×47.0 こぐま社蔵
67 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ぐんぐん大きくなって、りっぱなねこになるのだ。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.3×37.5 こぐま社蔵	74 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「こら、動かないとおもって安心してるナ。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 38.0×56.4 こぐま社蔵	81 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ばいばい。じゃーねー。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.5×38.0 こぐま社蔵	88 馬場のぼる 『ゴリラマン』原画 全頁 1973 (昭和28) 紙・墨、水彩、鉛筆 38.7×54.5 (扉 38.4×32.5) 個人蔵
68 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「あざみの中にはいと、ねこは急にりっぱに見える。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 29.0×38.0 こぐま社蔵	75 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「ワワワ、諸君、もう撃ち合いなんかやる時代じゃないですゾ。」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 38.0×56.4 こぐま社蔵	82 馬場のぼる 『馬場のぼる ねこのせかい』より 「あッあう うあッあ あうあうあう (ヤッバリ ヌカナイト ダメデスカイ。)」 1985 (昭和60) 紙・墨、水彩、パステル 28.5×38.0 こぐま社蔵	89 馬場のぼる 『らしようものおに』原画 2 頁-13 頁、22 頁-35 頁 1974 (昭和49) 紙・墨、水彩 38.3×54.3 個人蔵

絵本のせかい

90 馬場のぼる 『ももたろう』原画 1999（平成11） 表紙、2頁-13頁、18頁-31頁 紙・墨、水彩 38.0×51.0（表紙 38.3×27.6） こぐま社蔵	97 馬場のぼる 『五助じいさんのキツネ』ラフスケッチ （複写物／こぐま社版） 4頁-5頁、12頁-17頁、24頁-25頁、 38頁-39頁 1979（昭和54） 紙・鉛筆 24.3×19.3 原物：こぐま社蔵	思い出あれこれ 104 馬場のぼる生家写真 個人蔵 105 『コドモエバナシ』 大日本雄弁会講談社 1942（昭和17）年12月1日発行 モマ・コンテンポラリー蔵	115 馬場のぼる 投稿漫画「ユーモア作家でも」 1947（昭和22） 紙・墨 11.0×18.1 個人蔵
91 馬場のぼる 『アリババと40人の盗賊』原画 題字、6頁-11頁、18頁-23頁 1988（昭和63） 紙・墨、水彩 38.0×56.3（題字 26.8×39.7） こぐま社蔵	98 馬場のぼる 『ぶどう畑のアオさん』原画 全頁 2001（平成13） 紙・墨、水彩 38.3×51.4 こぐま社蔵	106 清水崑 『長篇漫画 のらくらアプー』 1948（昭和23）年7月10日発行 個人蔵	116 馬場のぼる 投稿漫画「子供とバアマメント」 1947（昭和22） 紙・墨 11.0×18.1 個人蔵
92 馬場のぼる 『アラジンと魔法のランプ』原画 表紙、6頁-7頁、14頁-15頁、 22頁-23頁、26頁-27頁、 36頁-37頁、40頁-41頁 1994（平成6） 紙・墨、水彩 38.0×56.3（表紙 40.5×32.8） こぐま社蔵	99 馬場のぼる 『きつねとごんろく』原画 2頁-7頁、10頁-17頁、42頁-53頁、 奥付 1984（昭和59） 紙・墨、水彩 27.0×38.4 個人蔵	107 馬場のぼる 城山遠足 1980（昭和55） 紙・墨、水彩 63.0×97.0 三戸町蔵	117 馬場のぼる 投稿漫画「バスはゆれる」 1947（昭和22） 紙・墨 13.8×14.7 個人蔵
93 馬場のぼる 『ぶたたぬききつねねこ』原画 1978（平成53） 全頁 紙・墨、水彩 26.1×44.3 こぐま社蔵	100 馬場のぼる 『もん太と大いのしし』原画 2頁-3頁、8頁-11頁、32頁-36頁、 46頁-47頁、50頁-51頁、52頁-53頁、 54頁-55頁、58頁-63頁 1975（昭和50） 紙・墨、水彩 34.0×44.7 個人蔵	108 馬場のぼる 元木平の松並木 1989（平成元） 紙・墨、水彩 54.0×71.0 三戸町蔵	118 馬場のぼる 『黄金鷲』 昭文社 1948（昭和23）年5月25日発行 個人蔵
94 馬場のぼる 『ぶたたぬききつねねこ その2』原画 1981（昭和56） 全頁 紙・墨、水彩 27.0×42.8 こぐま社蔵	101 馬場のぼる 『ごんすけのドーナツ』 1978（昭和53） 全場面 紙・墨、水彩 19.2×35.0 個人蔵	109 三戸町立三戸尋常高等小学校時代の通知表 ※1年次と6年次 個人蔵	119 馬場のぼる（幡馬之助名義で発表）／春木 一路・作 『長篇冒険漫画 アメリカ西部物語 赤覆面 の怪傑』 フレンド書房 1948（昭和23）年11月25日発行 個人蔵
95 馬場のぼる 『五助じいさんのキツネ』原画 （福音館書店版） 1979（昭和54） 全ページ 紙・墨、水彩 38.4×27.2 個人蔵	102 馬場のぼる 『おおかみがんばれ』 2頁-21頁 1980（昭和55） 紙・墨、水彩 29.5×42.0 個人蔵	110 紀元二千六百年 三戸尋常高等小学校卒業 記念帳（複写） 1940（昭和15）発行 個人蔵	120 馬場のぼる 『手塚治虫 夢ワールド』展作 1989（平成元） 紙・墨、水彩 35.0×50.5 こぐま社蔵
96 馬場のぼる 『五助じいさんのキツネ』校正刷り （こぐま社版） 5頁、13頁、15頁-17頁、19頁、 23頁、25頁、33頁、37頁、39頁 1979（昭和54） 紙・描き版 39.2×54.5 こぐま社蔵	103 馬場のぼる 『かえるがみえる』校正刷り 8頁-21頁、28頁-29頁 紙・描き版 39.5×54.8 こぐま社蔵	111 三戸尋常高等小学校六年二組集合写真（複写） 1940（昭和15） 個人蔵	121 馬場のぼる 『私のアトム展』展作 1993（平成5） 50.0×71.0 紙・墨、水彩、パステル こぐま社蔵
		112 清水海軍航空隊14期甲種飛行予科練習生 時代の集合写真（複写） 1944（昭和19）頃 個人蔵	122 馬場のぼる 手塚さんはどんなときでも原稿を描いていた 紙・墨、水彩 個人蔵
		113 馬場のぼる 演藝大会ポスター 1945（昭和20）-1948（昭和23）頃 紙・墨、水彩 59.0×88.7 三戸町蔵	
		114 馬場のぼる 投稿漫画「投票日」 1947（昭和22） 紙・墨 11.0×17.2	

- 123
馬場のぼる
『第25 回漫画家の絵本の会 ～漫画家の五・七・五～』より
「空梅雨（からつゆ）やにわか俳諧師らはしやぎおり」のぼる
1999（平成11）
紙・墨、水彩
380×41.0
こぐま社蔵
- 124
馬場のぼる
『第25 回漫画家の絵本の会 ～漫画家の五・七・五～』より
「柳からもんぐわとて出る子哉」一茶
1999（平成11）
紙・墨、水彩
380×41.0
こぐま社蔵
- 125
馬場のぼる
『第25 回漫画家の絵本の会 ～漫画家の五・七・五～』より
「投げ出した足の先なり雲の峰」一茶
1999（平成11）
紙・墨、水彩
380×41.0
こぐま社蔵
- 126
馬場のぼる
『第25 回漫画家の絵本の会 ～漫画家の五・七・五～』より
「じっとして雪をふらすや牧の駒」一茶
1999（平成11）
紙・墨、水彩
380×41.0
こぐま社蔵
- 127
馬場のぼる
「まんがルポ 郵便外務員の1 日体験 一大宮郵便局」
郵政省広報誌「ポスト」（廣済堂出版）
1978（昭和53）年11 月号掲載
個人蔵
- 128
馬場のぼる
「まんがルポ 郵便外務員の1 日体験 一大宮郵便局」のためのスケッチ
1978（昭和53）
紙・鉛筆
250×34.0
個人蔵
- 129
馬場のぼる
「まんがルポ 郵便はこころを形に ～静岡県・川根郵便局をたずねて～」
郵政省広報誌「ポスト」（廣済堂出版）
1981（昭和61）年6 月号掲載
個人蔵
- 130
馬場のぼる
「まんがルポ 郵便はこころを形に ～静岡県・川根郵便局をたずねて～」のためのスケッチ
1981（昭和61）
紙・鉛筆
250×34.0
個人蔵
- 131
馬場のぼる
「シリーズ：漫画訪問記」
『少年クラブ』（大日本雄弁会講談社）
1954（昭和29）－1956（昭和31）頃の連載
個人蔵
- 132
馬場のぼる
「シリーズ：漫画訪問記」のためのスケッチ
1954（昭和29）－1956（昭和31）頃
紙・鉛筆
個人蔵
- 133
馬場のぼる
「シリーズ：漫画ルポ」
『中学時代一年生』（旺文社）
1958（昭和33）年8 月－1959（昭和34）年頃の連載
個人蔵
- 134
馬場のぼる
「シリーズ：漫画ルポ」のためのスケッチ
1958（昭和33）年8 月－1959（昭和34）年頃
紙・鉛筆
個人蔵
- 135
馬場のぼる愛用の道具
（手作りの竹ペン、硯、墨）
個人蔵
- 136
馬場のぼる
スケジュール等が書き込まれた手作りのカレンダー
1957（昭和32）－1969（昭和44）
紙・墨、鉛筆等
27.0×19.0
個人蔵

青森県立美術館 × 十和田市現代美術館 ラブラブショー

開催概要

会期：2009年12月12日（土）－2010年2月14日（日）

開催日数：54日間

会場：青森県立美術館、十和田市現代美術館

主催：ラブラブショー実行委員会（青森県立美術館、十和田市現代美術館、青森テレビ）

後援：東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、河北新報社青森総局、朝日新聞社青森総局、毎日新聞社青森支局、読売新聞社青森支局、日本経済新聞社青森支局、産経新聞社青森支局、共同通信社青森支局、時事通信社青森支局、北海道新聞社、NHK青森放送局、FM青森、青森ケーブルテレビ

協賛：青森オフセット印刷株式会社

観覧料：

企画展 一般900円（800円）、高大生700円（600円）、小中生300円（200円）

企画展＋常設展 一般1,300円（1,100円）、高大生900円（800円）、小中生400円（300円）

※（ ）内は前売券及び20名以上の団体料金

入場者数

5,160人

参加アーティストおよび展示内容

○展示室A：鈴木理策（写真家）× 遠山裕崇（美術家）

桜をモチーフにした鈴木理策の「絵画的写真」と、林檎の花をモチーフにした遠山裕崇の「写真的絵画」の出会い。まばゆい光に包まれた空間の中に出会いを誘発する「花」の作品を展示しつつ、「写真」と「絵画」の関係性について考えた。

○展示室B：種村季弘（作家）× 桑原弘明（美術家）× 山吉由利子（人形作家）

空間はいきなり暗転。テーマは「幻想」。礼拝堂をイメージした空間に、ドイツ文学者種村季弘のテキストと、山吉由利子のファンタジックな球体関節人形、そして美しく装飾された小さなオブジェの中に広がる不思議な光景をのぞき見る桑原弘明のスコープを設置。

○展示室C：岡崎京子（漫画家）× 伊藤隆介（映像作家）

「現代」のポップなディテールを描き、ファンタジーとバイオレンスの両義性をもつ寓話的世界を探究した岡崎京子の漫画と、その世界観をジオラマ＋映像という手法で再構築する

映像作家伊藤隆介のコラボレーション。ゆるやかに歴史の一部となりつつある1980－90年代の日本を再検証するインスタレーション。

○曾我部恵一（音楽家）× 奥村雄樹（美術家）

音楽と映像のコラボレーション。PV（プロモーションビデオ）ではなく、映像を音楽が支えるのでもなく、両者が対等な関係性を保ちつつ、一つの作品として成立させる試み。さらに、映像と音というバーチャルな世界を現実とつなぐ体感的な仕掛けも準備。

○立石大河亞（美術家）× 松村泰三（美術家）

平面や立体において新しい視覚世界を作り出す立石大河亞と、光を素材として視覚の問題を追求する松村泰三とのコラボレーション。鮮やかな光に包まれた空間の中で、「見る」という行為の意味を問い直した。

○斎藤義重（美術家）× 菊地敦己（デザイナー）

絵画からレリーフ、そして立体へと展開し、物質、構成、空間といった要素を重んじた斎藤義重の仕事を、その構造的なデザインで高い評価を受けている菊地敦己によって再解釈していく試み。

○十和田市現代美術館では、ロビン西（漫画家）× K MURA（立体造形作家）、吉田初三郎（鳥瞰図絵師）× 秋山さやか（美術家）という2組のコラボレーションを行った。

○特別企画：ケンピ＋ゲンピ ネットワークプロジェクト

2つの館をつなぐシャトルバスを運行し、停留場へいたる導線に西澤徹夫（建築家）× 寶神尚史（建築家）によるインスタレーションを設置。

○併設企画：プレイベント | groovisions 「GRV2465」

展示会のプレイベントとして2009年10月10日よりあおり犬外部アプローチにてgroovisionsのインスタレーションを行った。

○併設企画：assistant 「with / without me」

建築家ユニットassistantによる出品作家のレファレンスコーナーを兼ねたインスタレーションを設置した。

関連企画

「groovisions (グルーヴィジョンズ) スライドレクチャー」

2009年12月6日

講師：伊藤弘氏 (groovisions 代表)

会場：ワークショップA

インスタレーション&ワークショップ | assistant 「with / without me」

2009年12月11日、2010年2月11日

講師：assistant (建築家)

場所：B2F ロビーの踊り場他

シンポジウム「青森／現代／美術」

2009年12月20日

パネラー：近藤由紀 (国際芸術センター青森学芸員)、嶋中克之 (naca 副理事長)、日沼禎子 (国際芸術センター青森学芸員)、菅原靖雄 (十和田市現代美術館主任主査)、三好徹 (青森県立美術館次長)

モデレーター：工藤健志 (青森県立美術館学芸員)

場所：シアター

クリスマス&バレンタインデー企画「ラブラブミュージアムナイト」

2009年12月24日・2010年2月14日

場所：企画展示室、カフェ

ギャラリートーク「ラブラブトークショー」

2010年1月10日、17日、24日

場所：企画展示室

ワークショップ「ラブラブネームホルダー&ネームタグ」

2010年1月16日

講師：増満兼太郎氏

場所：ワークショップA

鈴木慶一 × 曾我部恵一「ラブラブライブ」

2010年1月30日

出演：鈴木慶一、曾我部恵一、うきぐも

場所：シアター

「ラブラブインフォメーション」 ※ 青森市との連携事業

2009年12月24日～2010年2月14日

カタログ

仕様：25.9×18.0×1.1 cm、128頁

編集：工藤健志、山貝征典、細矢久人

テキスト：種村季弘、村雨ケンジ、原田真紀、茂田有徳、
工藤健志、山貝征典、板倉容子

アートディレクション：乗田菜々美

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行：ラブラブショー展実行委員会



ポスター



展示風景

青森県立美術館 × 十和田市現代美術館=ラブラブショー
 アーティスト × アーティスト=ラブラブショー
 美術 × 写真 × 漫画 × デザイン × 映像 × 音楽 × 文学…=ラブラブショー
 作品 × 建築=ラブラブショー

2名の作家のコラボレーションによる、展示空間そのものをキャンバスに見立てたインスタレーションで構成される美術展。美術のみならず多彩なジャンルで活躍する作家が参加、作家と作家が出会い、展示空間と作品が出会い、そして作品と観客が出会う。その様々な「出会い」をとおして、「表現」の可能性と、新しい「価値」を生み出すことを目的とした企画。

なお展覧会のコンセプトは下記のとおりである。

- 「出会い（＝ラブ）」がテーマの、賑やかで楽しい展覧会
 様々な表現が出会い（アーティストとアーティストのコラボレーション）、作品と美術館が出会い（空間そのものを体感するインスタレーション）、それらと観客が出会うこと（新鮮で刺激的な体験）をテーマにした展覧会。
- いま、ここでしか見られない展覧会
 隣接する三内丸山遺跡の発掘現場に着想を得て設計された青森県立美術館と、大小様々なボリュームを持つ展示室が街に向かって

開放されている十和田市現代美術館。いずれも他の場所では見られないユニークな美術館である。本展はそうした建物や展示室の特徴をいかし、作品と空間が一体的に感じられるような展示を行う。
 ○美術のみならず様々な表現を紹介し、現代日本文化を多角的に考察

美術家をはじめ、ミュージシャン、写真家、漫画家、映像作家、デザイナー、文学者など多彩なジャンルで活躍しているクリエイターが参加。絵画 × 写真、漫画 × 映像、立体 × デザインなどジャンルの枠組みを越えたコラボレーションをとおして「表現」の様々な可能性を探ると同時に、現代日本文化の「いま」を多角的に伝える。

○青森県内の関連施設との連携（＝ラブ）
 青森県内の芸術文化ネットワークの推進という観点から、関連施設等と以下の連携を行う。

- ・共同開催：十和田市現代美術館（あわせて2館の間をシャトルバスでつなぐ）
- ・参加作家のワークショップ開催：国際芸術センター青森
- ・民間との連携：ラブラブライブ
- ・美術館ショップとの連携：オリジナルグッズの企画提案
- ・美術館カフェとの連携：ラブラブミュージアムナイト
- ・青森市との連携：青森市民ホールでの広報ブース設置、「赤い糸プロジェクト」との連動

出品作品

鈴木理策

1
SAKURA
2007
発色現像方式印画
120.0×150.0
作家蔵

2
SAKURA
2007
発色現像方式印画
120.0×150.0
作家蔵

3
SAKURA
2007
発色現像方式印画
120.0×150.0
作家蔵

4
SAKURA
2007
発色現像方式印画
120.0×150.0
作家蔵

5
SAKURA
2007
発色現像方式印画
120.0×150.0
作家蔵

6
SAKURA
2007
発色現像方式印画
120.0×150.0
作家蔵

遠山裕崇

7
synchrony
共時態
2009
キャンバスに油彩、岩絵の具、蜜蝋、木製
パネル
221.4×147.6
作家蔵

8
dachrony
通時態 (5点組)
2009
キャンバスに油彩、岩絵の具、蜜蝋、木製
パネル
各99.0×66.0
作家蔵

山吉由利子

9
マネキン
1990
アンチック布ボディ、石塑、モデリングペ
ースト、油彩、ガラスアイ、絹毛
90.0×27.0×16.0
作家蔵

10
サンドリアン
2000
石塑、モデリングペースト、油彩、グラス
アイ、人毛、球体関節
99.0×24.0×13.0
作家蔵

11
eva
2001
石塑、油彩、布、ガラスアイ、人毛、モデ
リングペースト、球体関節
105.0×27.0×14.0
作家蔵

12
エリザ
2001
石塑、モデリングペースト、油彩、グラス
アイ、人毛、球体関節
88.0×21.0×16.0
作家蔵

13
フデレリック
箱の少女
2001
木、石塑、モデリングペースト、油彩、グ
ラスアイ、絹毛
69.0×30.0×15.0
作家蔵

14
庵屋に迷い込んだ少女
2004
石塑、油彩、ガラスアイ、人毛、球体関節
128.0×16.0×16.0
作家蔵

15
時の訪問者
2004
石塑、油彩、ガラスアイ、球体関節人形
110.0×30.0×16.0
作家蔵

16
乳母車と少女
2004
石塑、モデリングペースト、油彩、グラス
アイ、絹毛、球体関節
123.0×23.0×18.0
作家蔵

17
アリス
2004
石塑、油彩、ガラスアイ、人毛、球体関節
123.0×30.0×15.0
作家蔵

18
ピノキオ
2009
桐粉、木
55.0×26.0
作家蔵

桑原弘明

19
Scope
1990
ミクストメディア
54.0×38.0×60.0
個人蔵

20
窓辺の午後
1996
ミクストメディア
52.0×40.0×61.0
個人蔵

21
鏡
1996
ミクストメディア
59.0×63.0×83.0
個人蔵

22
ある物語の始まり
1998
ミクストメディア
125.0×60.0×60.0
個人蔵

23
鏡の部屋
2000
ミクストメディア
49.0×50.0×64.0
個人蔵

24
玉虫厨子
2001
ミクストメディア
69.0×64.0×85.0
個人蔵

25
詩人の椅子
2001
ミクストメディア
58.0×61.0×61.0
個人蔵

26
まだら
2001
ミクストメディア
64.0×63.0×65.0
個人蔵

27
雨音
2005
ミクストメディア
68.0×68.0×68.0
個人蔵

28
青の部屋
2006
ミクストメディア
62.0×59.0×57.0
個人蔵

岡崎京子

29
ヘルタースケルター
(祥伝社『ヘルタースケルター』221p)

30
恋愛依存症 KARTE 3
(角川書店『UNTI TLED』198p)

31
さようならの夏
(スコラ『TAKEIT EASY』222p)

32
リバーズ・エッジ
(宝島社『リバーズ・エッジ』扉イラスト)

33
リバーズ・エッジ
(宝島社『リバーズ・エッジ』1p)

34
チョコレートマーブルちゃん
(角川書店『チワワちゃん』70-71p)

35
冷蔵庫女
(マガジンハウス『恋とはどういうものかし
ら?』210p)

36
でっかい恋の物語。
(角川書店『危険な二人』36p)

37
でっかい恋の物語。
(角川書店『危険な二人』41p)

38
愛の生活 第三話
(角川書店『愛の生活』175p)

39
Walk On The Wild Side
(角川書店『カトウーンズ』134p)

40
ジオラマボーイパノラマガール
(マガジンハウス『ジオラマボーイパノラマガール』206p)

41
彗星物語
(白夜書房『バージン』45p)

42
フロローグ
(宝島社『うたかたの日々』より2～3p)

43
水の中の小さな太陽
(祥伝社『エンド・オブ・ザ・ワールド』142p)

伊藤隆介

44
[Realistic Virtuality (Moonscape)]
[Realistic Virtuality (Kyoko Okazaki and Her Subjects) or (The Desk of the Comic Artist)]
2009
CCD カメラ、ビデオ・プロジェクタ、モーター、ミクストメディア
作家蔵

45
[Traveling Company (道行き)]
2009
ミクストメディア
作家蔵
1000.0×1675.0×2165.0
(インスタレーションサイズ)
協力：吉田ひでお (アーリオ工房)、石井三恵 (Stella Syndicate)

曾我部恵一 × 奥村雄樹

46
本日は晴天なり
Today is another sunny day
2009
550.0×1020.0×690.0
(インスタレーションサイズ)
作家蔵

立石大河亞

47
ネオン絵画
富士山
1964 / 2009
ネオン、木、スチール、アクリル
194.0×296.0
遺族蔵

48
SEZANNE
1996
セラミック
遺族蔵

49
DE CHIRICO
1996
セラミック
50.0×42.0×39.0
遺族蔵

50
GAUGUIN
1996
セラミック
遺族蔵

51
HOPPER
1996
セラミック
遺族蔵

52
MRO
1996
セラミック
遺族蔵

53
R CASSO
1996
セラミック
遺族蔵

54
R VERA
1996
セラミック
遺族蔵

55
RYUSEI
1996
セラミック
52.0×43.0×31.0
遺族蔵

56
TARO
1996
セラミック
53.0×43.0×40.0
遺族蔵

松村泰三

57
peep show <富士>
2009
アルミ、光源、木
180.0×300.0
作家蔵

58
surface[3-1]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

59
surface[3-2]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

60
surface[3-3]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

61
surface[3-4]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

62
surface[3-5]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

63
surface[3-6]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

64
surface[3-7]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

65
surface[3-8]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

66
surface[3-9]
2009
モーター、木、アルミ
155.0×43.0×43.0
作家蔵

斎藤義重

67
柵木
1998
木 (合板他)、ラッカー・ボルト
290.0×607.0×235.0
青森県立美術館蔵

菊地敦己

68
[十分でない状態 Bells and Whistles]
2009
木、ペンキ
550.0×1190.0×800.0
(インスタレーションサイズ)
作家蔵

生誕 100 年記念 太宰治と美術－故郷と自画像展

開催概要

会期：2009 年7 月11 日（土）－9 月6 日（日）

開催日数：57 日間

会場：青森県立美術館

主催：青森県立美術館

共催：青森県近代文学館

助成：芸術文化振興基金

後援：東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、河北新報社、毎日新聞青森支局、読売新聞青森支局、朝日新聞青森総局、日本経済新聞社青森支局、共同通信社青森支局、時事通信社青森支局、NHK 青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、八戸テレビ放送、エフエム青森、コミュニティーラジオ局BeFM、FM アップルウェブ、エフエムアジュール

観覧料：

企画展 一般800 円（600 円）、高大生500 円（400 円）、小中生200 円（100 円）

※（ ）内は団体料金

入場者数

23 191 人

関連企画

記念講演会「太宰治：自画像の文学」

日時：7 月12 日（日） 13：30－15：30

講師：安藤宏（東京大学准教授）

場所：青森県立美術館シアター

観覧者数：40 人

ドラマリーディング「津軽/ ことば」

日時：7 月18 日（土）、7 月25 日（土） 15：00－15：30

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

場所：青森県立美術館展示室H

第3 回アート入門講演会「太宰治と美術」

日時：7 月19 日（日） 13：30－15：00

講師：池田亨（青森県立美術館学芸員）

ドラマリーディング「畜犬談」「おしゃれ童子」

日時：8 月16 日（日） 14：00－15：00

構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

出演：村田雄浩、川上麻衣子他

場所：青森県立美術館シアター

カタログ

A4 判変形 128 ページ

2009 年7 月11 日発行

編集・発行 青森県立美術館

編集 池田 亨

編集協力 青森県近代文学館

編集アシスタント 乗田菜々美、山口潤

執筆 安藤宏（東京大学准教授）、池田亨（青森県立美術館）

デザイン 乗田菜々美

印刷 青森オフセット印刷（株）

著作権 青森県立美術館

著者、作家著作権継承者

目次

ごあいさつ

「太宰治・自画像の文学」 安藤宏

太宰治と美術

太宰治と写真

家族の肖像

「晩年」の時代

太宰治と阿部合成

太宰治と棟方志功

太宰治の青森

資料編

「太宰治と美術」 池田 亨

主要出品作品リスト

太宰治 略年譜

主要作家略歴



ポスター



展示風景

2009年に生誕100年を迎えた青森県五所川原市金木町出身の作家・太宰治（1909－1948）は、旧制青森中学時代から美術にも関心が深く、生涯にわたり画家の友人たちと親密に交流したほか、作中にも様々な形で画家や美術作品が登場しており、太宰の文学において美術は重要な役割を占めている。

本展は、そこに着目し、太宰治の生涯と文学を「故郷と自画像」をテーマに、画家の友人や美術との関わりを紹介しながら、太宰を育んだ青森の芸術風土なども展望する展覧会である。

本展は県近代文学館との共催であるが、同時期に同文学館でも単独企画として生誕100年記念太宰治展を開催しており、太宰の文学を中心にした展示を行っている。

今回の展示では、太宰自身の描いた油彩画（「自画像」とされる肖像画など）やデザインした同人誌、学生時代の自画像の落書きのあるノート、太宰のポートレート写真なども展示。これまでにない形で、太宰治の芸術と生涯を紹介するとともに、

『人間失格』などの作品に表現された彼の「自画像」への関心をヴィジュアルに紹介。太宰の作品・資料のみならず、同窓の画家の作品や、太宰が生きた時代の写真や資料を展示し、太宰を育んだ青森の文化環境を立体的に展望する。

その他、各コーナーに関連する太宰の小説の直筆原稿、書簡、初版本、初出雑誌など、遺族や各地文学館等から借用した貴重な文学資料を展示した。

出品作品

[油彩・版画・彫刻等]

太宰治とゆかりの画家

1 太宰治 『自画像』 1947 頃 板・油彩 33.1×24.2 個人蔵	8 鯨崎潤画・太宰治賛 『風景』 1940 頃 板・油彩 23.8×33.0 個人蔵	16 阿部合成 『自画像』 1947 板に麻布・油彩 41.1×32.7 青森県立美術館蔵	25 阿部合成 『キリスト』 1966 板・油彩 61.4×39.2 青森県立美術館蔵
2 太宰治 『肖像』 1947 頃 板・油彩 33.2×23.2 個人蔵	9 桜井浜江 『人物』 1948 キャンバス・油彩 80.3×65.2 三鷹市美術ギャラリー蔵	17 阿部合成 『素描』 1940 頃 紙・インク、墨 18.5×22.0 青森県立美術館蔵	26 阿部合成 『ミイラ』 1966 板・油彩 69.3×113.9 青森県立美術館蔵
3 太宰治 『肖像』 1947 キャンバス・油彩 34.0×24.5 個人蔵	10 津島圭治 『仏像』 制作年不詳 ブロンズ 青森県近代文学館蔵	18 阿部合成 『或日の詩人』 1954 板に麻布・油彩 35.3×24.5 青森県立美術館蔵	27 阿部合成 『マリヤ・声なき人々の群れA』 1966 板・油彩 92.2×56.1 青森県立美術館蔵
4 太宰治 『三つの顔』 1947 頃 板・油彩 24.3×33.4 個人蔵	11 阿部合成＋常田健 連作『海の群像』 『鯉をかつぐ人々』 79.0×156.0 『魚市場の風景』 79.0×119.0 『延縄を引く漁師』 83.0×76.0 『水揚げ』 79.0×75.0 『船揚げ機をまく人々』 79.0×32.0	19 阿部合成 『自画像』 1960 板・油彩 120.2×64.4 青森県立美術館蔵	28 阿部合成 『埋められた人々B』 1969 板・油彩 142.8×79.5 青森県立美術館蔵
5 太宰治 『風景』 1940 頃 キャンバスボード・油彩 15.7×22.3 個人蔵	12 阿部合成 『農夫』 1937 キャンバス・油彩 60.7×41.1 青森県立美術館蔵	20 阿部合成 『林の中のカラス』 1960 板・油彩 120.2×65.0 青森県立美術館蔵	29 阿部合成 『インデオたちの祈り』 1966 板・油彩 各108.0×81.8 青森県立美術館蔵
6 太宰治 『水仙』 1940 頃 板・油彩 27.4×22.3 個人蔵	13 阿部合成 『田園』 1939 頃 板・油彩 60.9×72.6 青森県立美術館蔵	21 阿部合成 『あざみ』 1964 板に紙・油彩 75.6×82.6 青森県立美術館蔵	30 阿部合成 『山岸外史』 1970 板・油彩 33.6×24.4 青森市教育委員会蔵
7 太宰治・堤重久・秋田富子 『他画他讃 自賛する人もありき』 1942 年1月 キャンバス・油彩 40.8×37.2 日本近代文学館蔵	14 阿部合成 『少女像』 1941 板・油彩 33.5×24.0 青森県立美術館蔵	22 阿部合成 『すすき』 1964 板に紙・油彩 57.0×73.7 青森県立美術館蔵	31 阿部合成 『海を見る詩人』 1970 板・油彩 41.0×31.4 青森県立美術館蔵
	15 阿部合成 『夫人像』 1942 キャンバス・油彩 79.5×64.5 青森県立美術館蔵	23 阿部合成 『海辺』 1964 板に紙・油彩 44.4×71.0 青森県立美術館蔵	32 阿部合成 『道化前駆する』 1970 板・油彩 90.3×134.8 青森県立美術館蔵
		24 阿部合成 『太宰治碑のための素描（スケッチブック）』 1965 頃 紙・鉛筆 青森県立美術館蔵	33 阿部合成 『踊る馬』 1971 板・油彩 121.0×90.0 青森市教育委員会蔵

34 阿部合成 『野牛』 1971 板・油彩 168.7×333.0 青森県立美術館蔵	43 小館善四郎 『風雪』 1943 キャンバス・油彩 60.6×91.0 青森市蔵	52 小館善四郎 『こわれた蟹』 1954 キャンバス・油彩 60.6×91.0 青森市蔵	61 関野準一郎 『橋本誠一ガマ先生』 1981（原作1931） 紙・木版 22.0×16.4 青森市蔵
35 阿部合成 『津軽野』 1971 板・油彩 14.0×21.0 青森県立美術館蔵	44 小館善四郎 『おべんきょう』 1945—46 キャンバス・油彩 53.0×65.5 青森県立美術館蔵	53 小館善四郎 『冬の芒』 1954 キャンバス・油彩 100.0×80.3 青森市蔵	62 関野準一郎 『柿崎守忠スフィンクス先生』 1981（原作1931） 紙・木版 21.6×18.4 青森市蔵
36 阿部合成 『惱めるヨハネ』 1972 頃 板・油彩 66.5×30.9 青森県立美術館蔵	45 小館善四郎 『少女』 1945 頃 紙・鉛筆、水彩 15.0×18.0 青森県立美術館蔵	54 小館善四郎 『夕陽・蟹』 1957 キャンバス・油彩 53.0×72.7 青森市蔵	63 関野準一郎 『南部コーチン画の先生』 1981（原作1931） 紙・木版 18.8×12.6 青森市蔵
37 阿部合成 『マリヤ』 1972 キャンバス・油彩 145.2×112.2 青森県立美術館蔵	46 小館善四郎 『少女』 1945 頃 紙・鉛筆 24.0×24.0 青森県立美術館蔵	55 小館善四郎 『唐津稲穂』 1972 キャンバス・油彩 60.8×50.2 青森県立美術館蔵	64 関野準一郎 『佐久間漢文ナマズ先生』 1981（原作1931） 紙・木版 15.6×12.0 青森市蔵
38 阿部合成 『自画像（素描）』 制作年不詳 鉛筆・インク・紙 14.0×9.0 青森市教育委員会蔵	47 小館善四郎 『俱子像』 1948 キャンバス・油彩 31.0×40.0 青森県立美術館蔵	56 小館善四郎 『すずらん』 制作年不詳 ガラス絵 14.5×6.2 青森県立美術館蔵	65 根市良三 『殺人幻想』 1930 紙・多色木版 22.4×30.0 青森県立郷土館蔵
39 小館善四郎 『赤衣少女』 1935 キャンバス・油彩 91.0×72.0 青森市蔵	48 小館善四郎 『れもん』 1949 キャンバス・油彩 116.7×91.0 青森市蔵	57 今純三 『青森県画譜』より 1933—34 紙・石版 26.8×38.6 青森県立美術館蔵	66 根市良三 『絵の上の静物』 1933 紙・多色木版（彫進） 19.0×27.0 青森県立郷土館蔵
40 小館善四郎 『一隅』 1938 キャンバス・油彩 60.5×72.7 青森市蔵	49 小館善四郎 『鳥たち』 1950 頃 紙・油彩 80.3×116.7 青森県立美術館蔵	58 今純三 『風景』 1931 キャンバス・油彩 45.5×53.0 青森県立美術館蔵	67 根市良三 『思い出』装画 1933 紙・多色木版 22.6×33.6 青森県立郷土館蔵
41 小館善四郎 『花』 1939 キャンバス・油彩 53.0×72.7 青森市蔵	50 小館善四郎 『首と泉』 制作年不詳 キャンバス・油彩 73.0×91.0 青森市蔵	59 鷹山宇一 『はまへの歌』 制作年不詳（戦後） キャンバス・油彩 71.0×89.0 青森県立美術館蔵	68 根市良三 『八重樫園』 1943 紙・多色木版 各32.8×23.7 青森県立郷土館蔵
42 小館善四郎 『雪の日』 1941 キャンバス・油彩 116.7×80.8 青森市蔵	51 小館善四郎 『水仙』 1951 キャンバス・油彩 100.0×65.2 青森市蔵	60 関野準一郎 『西村弘毅コンポー先生』 1981（原作1931） 紙・木版 22.8×15.6 青森市蔵	69 根市良三 『園地隅園』 1943 紙・多色木版 29.5×40.5 青森県立郷土館蔵

70 根市良三 『十和田湖』 1943 紙・多色木版 39.0×53.0 青森県立郷土館蔵	79 根市良三 『柿図』 1944 紙・多色木版（彫進） 15.6×27.9 青森県立郷土館蔵	88 棟方志功 『雪国風景図』 1924 板・油彩 24.0×33.0 青森県立美術館蔵	97 棟方志功 『大旭日山』 1941 板・油彩 58.0×45.4 青森県立美術館蔵
71 根市良三 『膾図』 1944 紙・多色木版 36.0×30.7 青森県立郷土館蔵	80 根市良三 『木瓜花園』 1944 紙・多色木版 10.0×8.5 青森県立郷土館蔵	89 棟方志功 『初冬風景図』 1924 板・油彩 23.0×32.0 棟方志功記念館蔵	98 棟方志功 『雑華山房主人像図』 1942 板・油彩 31.5×24.0 青森県立美術館蔵
72 根市良三 『椛山図』 1944 紙・多色木版（彫進） 30.0×40.5 青森県立郷土館蔵	81 根市良三 『金木犀図』 1944 紙・多色木版（彫進） 24.0×21.0 青森県立郷土館蔵	90 棟方志功 『清水川にて』 1926 紙・素描 23.5×31.5 棟方志功記念館蔵	99 棟方志功 『経綱頌崑崙板画卷』 1942 紙・木版 各32.5×41.5 棟方志功記念館蔵
73 根市良三 『鴉図』 1944 紙・多色木版（彫進） 36.0×29.8 青森県立郷土館蔵	82 根市良三 『葬花園』 1944 紙・多色木版 19.8×27.2 青森県立郷土館蔵	91 棟方志功 『少女のスケッチ』 制作年不詳 紙・素描 15.0×23.0 青森県立美術館蔵	100 棟方志功 『焔火 山路の柵』 1960 紙・木版、裏彩色 45.0×25.0 青森県立美術館蔵
74 根市良三 『睡蓮図』 1944 紙・多色木版 19.7×27.2 青森県立郷土館蔵	83 松木満史 『少女』 1936 キャンバス・油彩 72.5×60.5 青森県立美術館蔵	92 棟方志功 『松木満史スケッチ』 1926 紙・墨画 22.5×31.0 棟方志功記念館蔵	101 棟方志功 『哀父頌 榊桜の柵』 1962 紙・木版、裏彩色 27.2×37.0 青森県立美術館蔵
75 根市良三 『雀図』 1944 紙・多色木版 23.7×27.0 青森県立郷土館蔵	84 松木満史 『採集』 1940 キャンバス・油彩 116.7×80.3 青森県立美術館蔵	93 棟方志功 『東京弁稚古の図』 制作年不詳 紙・墨画 18.0×24.0 棟方志功記念館蔵	102 棟方志功 『哀父頌 胸傷の柵』 1962 紙・木版、裏彩色 38.5×29.5 青森県立美術館蔵
76 根市良三 『白溪蓀図』 1944 紙・多色木版（彫進） 30.0×38.0 青森県立郷土館蔵	85 松下千春 『葉陰』 1932 頃 紙・多色木版 18.6×14.3 青森県立美術館蔵	94 棟方志功 『八甲田山山裾』 1936 板・油彩 22.5×31.5 青森県立美術館蔵	103 棟方志功 『哀父頌 酸澁の柵』 1962 紙・木版、裏彩色 27.0×36.5 青森県立美術館蔵
77 根市良三 『木蓮図』 1944 紙・多色木版（彫進） 16.5×48.0 青森県立郷土館蔵	86 三国慶一 『太古の蒼生』 1940 けやき 177.5×66.0×48.0 青森県立美術館蔵	95 棟方志功 『東北経鬼門譜』 1937 紙・木版 122.5×99.0 棟方志功記念館蔵	104 棟方志功 『竹内俊吉句板頌』 1970 -71 紙・木版、裏彩色 各22.5×22.0 棟方志功記念館寄託
78 根市良三 『黒蝶図』 1944 紙・多色木版（彫進） 23.7×21.0 青森県立郷土館蔵	87 棟方志功 『八甲田山麓図』 1924 板・油彩 23.5×33.0 青森県立美術館蔵	96 棟方志功 『奥入瀬溪流図』 1938 頃 板・油彩 24.0×33.0 青森県立美術館蔵	105 棟方志功 『十和田中湖の柵』 1956 紙・木版 20.2×27.2 棟方志功記念館蔵

106
棟方志功
『玫瑰の柵』
1961
紙・木版、裏彩色
40.3×30.3
棟方志功記念館蔵

107
棟方志功
『ゴッホの柳の柵』
1962
紙・木版、裏彩色
38.0×29.5
棟方志功記念館蔵

108
棟方志功
『龍飛岬の柵』
1967
紙・木版、裏彩色
40.3×24.1
棟方志功記念館蔵

109
棟方志功
『赤富士の柵』
1965
紙・木版、彩色
29.4×77.2
青森県立美術館蔵

110
棟方志功
『富嶽大観々図』
1972
紙・着色
68.5×134.0
青森県立美術館蔵

111
棟方志功
『自板像の柵』
1962
紙・木版
39.5×29.5
棟方志功記念館蔵

112
棟方志功
『筆くわいの柵』
1973
紙・木版
8.9×7.9
棟方志功記念館蔵

113
棟方志功
『吸うの柵』
1974
紙・木版
9.5×7.5
棟方志功記念館蔵

[文学資料]

書画等

114
太宰治
書幅「待ち待ちてことし咲きけり桃の花白
と聞きつつ花は紅なり」
個人蔵

115
太宰治
書幅「川ぞひの路をのぼれば赤き橋またゆ
きゆけば人の家かな」
個人蔵

116
太宰治
画と賛「季節にはすこしおくれてりんご籠
待ちたる友の笑顔よろしき」
1948
26.7×30.0
個人蔵

117
太宰治
画と賛「五月雨の木の晩間の下草に螢火は
つか忍びつつ燃ゆ」
1944
81.0×28.0
個人蔵

118
太宰治
色紙「わが名は狭き門の番卒」
山梨県立文学館蔵

119
吉岡堅二画、太宰治賛
色紙「わが身ひとつの夏にはあらねど」
1948
個人蔵

120
井伏鱒二画、太宰治賛
色紙「高田英之助像」「ほんものほもっとわ
かくていい男」
山梨県立文学館蔵

121
太宰治
色紙「はきだめの花」
個人蔵

122
太宰治
句集「亀の子」
1932 頃
個人蔵

123
井伏鱒二
書幅「なだれ」
個人蔵

124
山田貞一
「女生徒」表紙原画
山梨県立文学館蔵

125
太宰治（黒虫舜平名義）
『ねこ』原稿
青森県近代文学館蔵

126
太宰治
『容貌』原稿
青森県近代文学館蔵

127
太宰治
『黄村先生言行録』原稿
日本近代文学館蔵

128
太宰治
『父』原稿
日本近代文学館蔵

129
太宰治
『斜陽』原稿
日本近代文学館蔵

130
太宰治
『美男子と煙草』原稿
日本近代文学館蔵

131
太宰治
『人間失格』原稿
日本近代文学館蔵

132
保田與重郎
『佳人水上行』原稿
山梨県立文学館蔵

133
津島美知子
『[回想の太宰治] 増補改訂版のための原稿』
個人蔵

ノート類

134
太宰治
「弘前高校時代の英語教科書」
個人蔵

135
太宰治
「弘前高校時代のノート（断片）」
個人蔵

136
津島美知子
『[回想の太宰治] 取材ノート』
個人蔵

137
津島美知子
『[回想の太宰治] 書き込み本』
個人蔵

138
津島美知子
「津島家所蔵肉筆原稿リスト」
個人蔵

139
根市良三
「良記曆」
1933 - 1947
青森県立郷土館蔵

同人誌等

140
太宰治他
「靈気楼1 - 12」
青森県近代文学館寄託

141
太宰治他
「細胞文芸 創刊号」
青森県近代文学館蔵

書簡

142
太宰治
「小館善四郎宛書簡
（小澤秋成油彩画絵葉書同封）」
1936 年8 月22 日付
個人蔵

143
太宰治
「小館京宛絵葉書」
1934 年8 月14 日付
個人蔵

144
太宰治
「津島美知子宛葉書」
1943 年3 月10 日付
個人蔵

145
太宰治
「津島美知子宛葉書」
1948 年5 月4 日付
個人蔵

146
太宰治
「津島美知子宛葉書」
1948 年5 月7 日付
個人蔵

書籍

147
太宰治
『富嶽百景』（阿部合成への献辞入り）
青森市教育委員会蔵

148
太宰治
『晩年』
青森県近代文学館蔵

149
太宰治
「玩具」(阿部合成旧蔵)
青森市教育委員会蔵

150
太宰治
「女生徒」
青森県近代文学館蔵

151
太宰治
「千代女」(阿部合成装幀)
青森県近代文学館蔵

152
太宰治
「女性」(阿部合成装幀)
青森県近代文学館蔵

153
太宰治
「風のたより」(阿部合成装幀)
青森県近代文学館蔵

154
太宰治
「黄村先生言行録」
青森県近代文学館蔵

155
太宰治
「津軽」
青森県近代文学館蔵

156
太宰治
「佳日」
青森県近代文学館蔵

157
保田與重郎
「日本の橋(改版)」(棟方志功装幀)
青森県立美術館蔵

158
中谷孝雄
「時代祭」(棟方志功装幀)
青森県立美術館蔵

雑誌

159
「月刊東奥」
昭和14年10月号
「『故郷の秋』を語る在京青森県人芸術家座
談会」掲載
青森県史編さんグループ蔵

160
「月刊東奥」
昭和16年1月号
「青森」掲載
青森県史編さんグループ蔵

161
「月刊東奥」
昭和23年8月号
太宰治追悼号
青森県近代文学館蔵

162
「文芸」臨時増刊
昭和31年
太宰治読本(棟方志功装画・挿絵)
青森県近代文学館蔵

写真

163
田村茂
「三鷹の太宰治(10カット)」
1948
田村写真事務所

164
藤田本太郎
「弘前高校時代の太宰治」

165
「十王曼荼羅(地獄絵)」
江戸初期～中期
雲祥寺

その他資料

166
太宰治
「三鷹の住居の表札」
個人蔵

167
井伏鱒二旧蔵
「托鉢姿の仏像」
個人蔵

168
井伏鱒二旧蔵
「備前焼花生」
個人蔵

169
小山初代旧蔵
「琴」
ふくやま文学館蔵

170
「青森中学校校友会誌 第三七号」
1927
青森県史編さんグループ蔵

171
「青森中学校落成記念絵はがき」
1911
青森県史編さんグループ蔵

172
「陸奥金木町と芦野公園御案内」
昭和戦前期
青森県史編さんグループ蔵

173
「エジコ」
青森県立郷土館蔵

平成 21 年度常設展示

Permanent Exhibition 2009

平成21年度コレクション展の年間テーマは「笑い」と「祈り」。季節の特徴と変化が鮮やかな青森の風土の中で育まれた芸術の二つの側面を軸に展示を構成した。

春のコレクション展：ユーモアと祝祭—笑う前衛／似顔と肖像
2009年4月8日（水）－6月28日（日）
開催日数：80日間

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」（通年展示）

展示室 F 奈良美智インスタレーション（通年展示）

青森県弘前市出身の奈良美智(1959ー)は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど、精力的に発表を続けている。青森県立美術館は、1997年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は150点を越える。

《Hula Hula Garden》と《ニュー・ソウルハウス》という2点のインスタレーション(空間設置作品)を中心に、奈良美智の世界を紹介。

展示室 G 寺山修司：寺山修司と青森県

寺山修司(1935ー1983)が、中学校、高校時代、その編集に携わった学校新聞や文芸雑誌等の資料を中心に紹介し、青森における青年期の寺山の足跡を振り返った。

寺山修司が後年、自身で書き記した自らの出生地については、弘前市、三沢市、五所川原市などがあるが、実際に生まれた地は、警官だった父・八郎が勤務していた「弘前市」というのが現在の定説になっている。

その後、父の転勤にともなって少年・寺山修司は五所川原ー浪岡ー青森ー八戸ー再び青森市と、めまぐるしく青森県内を転々とする。そして、昭和20年7月28日の青森空襲によって焼け出され、父の故郷・三沢(古間木)へ。さらにその後、母が九州へ働きに行くことになり、母の親戚が住む青森市に身を寄せる。中学2年の時であった。この青森市で高校3年までをすごし、早稲田大学進学にともなって上京。少年期に別れを告げるのである。

企画・展示：株式会社テラヤマ・ワールド

棟方志功展示室 板画に「遊ぶ」—棟方志功に板画業

民芸運動の指導者、柳宗悦に見出され教えを受けた棟方志功(1903ー1975)の板画制作の根底には、つねに「他力によ

る美」、「無心の美」という民芸の思想があった。他力による板画を追求するうち、棟方は晩年になって「仕業が、遊べるところまで行かなければ、ならない」という考え方に至る。無心に、遊びの境地に達してこそ他力による板画が生まれてくるのであり、板画という大きな世界に遊ぶことが棟方の理想とする板画業であった。また、板画だけでなく倭画においても、筆を自由に走らせ、躍動感にあふれる姿で描いている。

「板画に遊ぶ」ことを理想とした棟方の作品に描かれたさまざまな表情を紹介。

展示室 K 笑う前衛 1—諷刺と諧謔

前衛美術において「笑い」は、時代を冷静に見つめる作家の視点、つまり社会批判の一つの手段として用いられることが多い。江戸の戯作を引き合いに出すまでもなく、時代に対する反抗や既成の権威を否定しようとするとき、「笑い」は有効な武器となる。そうした「時代性」と密接に結びついた「笑い」の表現を紹介。

(展示作家：池田龍雄、岡本信治郎、高山良策、立石紘一、豊島弘尚、中村宏、針生鎮郎、松本英一郎)

展示室 I 笑う前衛 2—ウィットとエスプリ

ある一つの事柄や思想を直接的に表現するのではなく、鑑賞者が「考えること」で本質が明らかになる作品、さらには物事を別の角度から眺めてみることで、当たり前と思われていることを否定したり、新しい考え方を我々に提示する作品も数多く存在する。

そうした機知とユーモアに富んだ発想によって制作された、我々の常識に揺さぶりをかけてくる作品を紹介。

(展示作家：秋山祐徳太子、磯辺行久、工藤哲巳、斎藤義重、篠原有司男、吉野辰海、アルマン)

展示室 H 笑う前衛 3—発想の妙

斬新な発想を持つ作品を紹介。いずれも着想の意外さと、そのモチーフを分析する鋭い観察眼が冴える作品の数々である。(展示作家：今井俊満、高松次郎、成田亨、前田常作、ヴィト・アコンチ、メル・ラモス)

展示室 L 石井康治：詩・季・彩—豊穡と静謐—

千葉県に生まれた石井康治(1946ー1996)は、東京芸術大学卒業後、ガラス工芸作家として活動を始め、1991年には青森市内丸山に「石井ガラススタジオ青森工房」を解説。1996年に急逝するまで、青森の自然は彼の創作の源泉となった。

「色ガラスを用いて自分のイメージを詩のような感じで作りたい」と語っていた石井は、こよなく青森を愛し、青森の地で制作し、青森を表現し作品に留めようとしていた作家であった。

生前、「青森で作った作品を、青森の人たちに見てもらえるスペースを作りたい」と作家本人が語っていた志をご遺族が承けて当館に寄託された150点余の作品のうち、40点を2期に分けて展示。前期は「豊穰」をテーマに、弘前の桜をイメージした華麗な彩花文シリーズ、後期は「静謐」をテーマに、さまざまな技法を用い、内なる詩想を形に表した作品を中心に紹介した。

展示室 M 日本画の癒し

日本画はその画材の特質から、詩情豊かな、たおやかな表現を得意としている。また、草花や小動物など、小さな、はかなきものに対する愛情を繊細な感覚で描写する作品も古来より数多く残されている。

野澤如洋、蔦谷龍岬、高橋竹年、須藤尚義の作品から、時にユーモラスであり、時に我々の気持ちを優しくしてくれる、そうした癒しの日本画を紹介。

展示室 N 特別史跡三内丸山遺跡出土の重要文化財：縄文の表現（通年展示）

特別史跡三内丸山遺跡は我が国を代表する縄文時代の拠点的な集落跡。縄文時代前期中頃から中期終末（約5500年前—4000年前）にかけて長期間にわたって定住生活が営まれた。これまでの発掘調査によって、住居、墓、道路、貯蔵穴など集落を構成する各種の遺構や多彩な遺物が発見され、当時の環境や集落の様子などが明らかとなった。また、他地域との交流、交易を物語るヒスイや黒曜石の出土、DNA分析によるクリの栽培化などが明らかになるなど、数多くの発見がこれまでの縄文文化のイメージを大きく変えた。遺跡では現在も発掘調査がおこなわれており、更なる解明が進められている。

一方、土器や土偶などの出土品の数々は、美術表現としても重要な意味を持っている。当時の人間が抱いていた生命観や美意識、そして造形や表現に対する考え方など、縄文遺物が放つエネルギーは数千年の時を隔てた今もなお衰えず、私達を魅了し続けている。

国指定重要文化財の出土品の一部を展示し、三内丸山遺跡の豊かな文化の一端を紹介。

※ 展示品はすべて青森県立郷土館所蔵

展示室 P,Q 似顔と肖像

関野準一郎（1914—1988）は数多くの版画による人物像を制作した。夫人と子どもたちの愛情にあふれた肖像は、さまざまな装いで、時にはペットの動物たちとともに繰り返し描かれている。また、師であった今純三、恩地孝四郎などの版画家は、それぞれのアトリエや作品をあしらって描かれている。一方、関野は数多くの文学者とも交友があり、作家の肖像画も多く手がけているが、それぞれの性格をうかがわせる表現となっている。その他、文楽や歌舞伎、あるいは力士など、舞台や勝

負の緊迫感を感じさせる肖像画は、優れた写真家のスナップショットを思わせるが、絵画ならではの誇張や構図などによる説得力のある表現は、浮世絵の伝統を今に蘇らせているものといえるだろう。

関野準一郎による肖像版画32点を展示した。

[夏] 常設展示

2009年6月29日(月) - 9月6日(日)

開催日数: 69日間

特別展・「太宰治と美術 - 故郷と自画像」展開催のため、アレコホール、展示室F、展示室Gのみ展示。

展示室 F 成田亨：怪獣デザインの美学 奈良美智インスタレーション (通年展示)

青森県出身の成田亨(1929 - 2002)が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画を紹介。青森県立美術館では、「ウルトラQ」「ウルトラマン」「ウルトラセブン」に登場するヒーローやメカ、怪獣、宇宙人のデザイン原画計189点を平成11年度に一括して収集している。

今回はその中でも人気のある『ウルトラマンイラスト』、『ウルトラマン初稿』3点、『カネゴン初稿』2点、『キングジョー初稿』等を展示。

※ 奈良美智イラストレーションについては、「春のコレクション展」より、引き続き展示。

展示室 G 寺山修司：寺山修司と青森県

※ 「春のコレクション展」より、引き続き展示。

秋のコレクション展 祈りと瞑想／ピカソ『女の頭部、横顔』特別公開

2009年9月11日(金) - 12月25日(金)

開催日数: 100日間

※ 以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

展示室 G 寺山修司：寺山修司とグラフィックデザイン

1967年、寺山修司は「見世物の復権」をテーマに劇団「演劇実験室◎天井桟敷」を立ち上げ、以後、活動の拠点とした。旧来的な演劇の制度に異議を申し立て、観客や不特定多数の人々を挑発する実験的な試みを数多く仕掛けていった天井桟敷は、海外でも高い評価を受け、1969年のドイツ公演を皮切りに毎年のように海外公演をおこなった。

寺山が活躍した1960 - 70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代であった。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのように権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていたが、特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や実験映画ではそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていた。

このコーナーでは、アングラ文化の象徴とも言うべき寺山のポスター18点を紹介した。

棟方志功展示室 棟方志功の神仏

棟方志功の作品には神仏をテーマとしたものが数多くある。それらは仏像や仏教の経典、伝説などを題材に制作されているが、型にとらわれることなく自由に描かれている。人間のような姿で描かれることもしばしばあり、身近な存在として神仏を捉えていたようであるが、それらの作品に込められているものは、あらゆるものに対し自然に湧き上がってくる祈りの心であった。棟方は後年、随筆や自伝の中で「身から出ているもの、身から湧くもの、そういう事が、宗教だと思えます。」と述べている。

棟方のそのような宗教心は板画をはじめとした数々の作品に昇華された。代表作《二菩薩釈迦十大弟子》、父母への想いを天使の姿に込めた《Angeles (A)》などの板画作品、板戸に描かれた静謐な倭画《御三尊像》など、祈りの想いを様々な表現した棟方の神仏作品を紹介した。

展示室 H 小坂圭二、小野忠弘：祈りのかたち、瞑想の造形

二人の作家の作品を紹介。ともに、独自の抽象的な造形の中に、世界や宇宙、神と人間といった哲学的な思索を感じさせる作品を制作した。

野辺地町出身の彫刻家の小坂圭二(1918 - 1992)は、野辺地中学時代に教員として来ていた画家の阿部合成に教えを受け、美術家の道を志した。1942年東京美術学校彫刻科に入学し、柳原義達に師事したが、翌年からラバウルに出征し、激戦

地で苦渋に満ちた戦争を体験。帰国後復学、新制作展に出品。38才で洗礼をうけ、さらに2年間のフランス留学を経て、独自の造形の宗教的な彫刻を制作した。

弘前市出身の小野忠弘（1913 - 2001）は廃品を利用したジャンク・アートの第一人者として、ヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど、世界的にも高く評価された前衛のアーティストである。福井県の三国町に居を定め、教鞭をとるかたわら、古美術や考古学にも造詣が深く、同地の文化財審議委員などもつとめた。今回は、晩年の「BLUE」シリーズを展示。

展示室I 豊島弘尚：故郷と宇宙、生と死をめぐる瞑想

「祈りと瞑想」の一環として、豊島弘尚（1933 - ）の作品を特集で展示。1960年代の終わり頃、豊島弘尚は故郷、八戸に伝わる「墓獅子」をテーマに制作に取り組みはじめる。「墓獅子」は、お盆の時期に新仏の眠るお墓の前で舞われる特別な獅子舞で、死者の魂を慰めるために舞い、花を供える。『墓獅子舞B』では、椿の花が供えられた朱机を前に、墓獅子は夏の青い空に巨大な彫刻のようにそびえ立つ。平面的に塗られた鮮やかな色彩と幾何学的な造形によって、画面には死者の魂を迎えて祈る、死者と生者の儀式的な静かな緊張感が漂っている。

「墓獅子」をモチーフにした作品を出発点に、地上から天空の星々の世界まで、生と死をめぐる自在に往還する豊島の作品世界を8点の作品によって紹介。

展示室J 成田亨：怪獣デザインの美学

成田亨（1929 - 2002）が手がけた「ウルトラ」シリーズの怪獣デザイン原画を紹介。彫刻家としての感性、芸術家としての資質が反映されたそのデザインは、放映後40年がたつ現在もなお輝きを失っていない。

《ウルトラマンイラスト》、《ウルトラマン初稿》、《カネゴン初稿》、《キングジョー初稿》等を展示。

展示室K 村上善男：津軽を想う

東北の地に根をはり、東北の風土と一貫して向き合い続けた美術家、村上善男（1933 - 2006）。

1950年代後半から活動を開始し、1960年代には注射針を画面に無数貼り付けた作品、さらには計測器具、新聞、各種統計図等にあられる数字を構成した作品で高い評価を得た村上は、1970年代に入って気象図や貨車をモチーフにした作品へと展開し、1982年以降は弘前市を拠点に活動を続け、古文書を裏返して貼り込んだ上から、あたかも釘を打つように白い点を描き、点と点を結ぶ「釘打図」を数多く手がけていった。時代を追うごとにその画業は大きく展開したが、緻密な計算による画面構成と抑制の効いた色彩を持つ理知的な作風が、村上芸術の一貫した特徴と言えよう。

形式的な伝統主義を越え、東北の磁場を自己に引きつけつつ、北の風土が持つ「根源性」、「普遍性」の探求を続けた村上の作品12点を紹介。

展示室L 石井康治：詩・季・彩 一秋の景一

当館に寄託されている石井コレクションの中から、秋の景色をテーマに、さまざまな技法を用いながら、落ち着いた秋のたたずまいを表した作品、青森の紅葉を想起される鮮烈な色彩による作品など、21点を展示。

展示室O ×Aプロジェクトno.8 首藤晃：アンビヴァレント・オブジェクトー両義的な物体

青森市を拠点に精力的な活動を行っている彫刻家、首藤晃（1969 - ）の作品を紹介。首藤晃（1969 - ）は、北海道江別市に生まれ、北広島市で育ち、弘前大学卒業後は青森を拠点に制作活動を行っている首藤は、生命のようにも、そして機械のようにも見える不可思議な彫刻作品を多く手がけている。扱う素材は鉄と木…、すなわち無機質なものと有機的なもの。あるいは発泡ウレタン…、化学的に構成された物質でありながらも、その発砲後の形は作為を越えたところに出現する。こうした二つの相反する素材を巧みに操作し、首藤は様々な形を生み出していくのだ。作品5点を展示。

展示室P パブロ・ピカソ『女の頭部、横顔』幻の第一ステート

今から100年ほど前に制作された、パブロ・ピカソの銅版画作品『女の頭部、横顔』は、20世紀最大の巨匠として知られる芸術家の青春時代を象徴する傑作。1990年頃、それまで存在を知られていなかったこの作品の第一ステートが発見された。世界で1点しか確認されていないその貴重な第一ステートを特別公開した。

展示室Q、M 「横顔」の魅力／色・線・形の魅力

2つのテーマによる版画の特集展示をおこなった。

ひとつは、「横顔」の魅力。ピカソの『女の頭部、横顔』の特別公開に合わせ、コレクションの中からルドンの「光の横顔」「ベアトリーチェ」など横顔の名品を展示し、横顔がもつ独特の美しさを紹介した。

もう一つのテーマは、色、線、形の魅力。色と線と形が織りなす豊かな世界を、クレー、マティス、カンディンスキー、恩地孝四郎、関野準一郎、高木志朗などの版画作品をとおして紹介した。

冬のコレクション展 春を待つ祈り／人間を彫る

2010年1月1日（金）－3月22日（月・祝）

開催日数：76日間

棟方志功展示室 湧き上がる生命

ふくよかな女性の姿をした独特の菩薩像を棟方志功は数多く描いている。丸顔で赤い頬をした豊満な女性の姿には母のイメージが投影され、生命力が満ちあふれている。また、人物だけでなく動植物も写生に頼ることなく自由に描き表した。

躍動感あふれる鯉の姿を描いた倭画『群鯉図』や、花札の図柄をヒントに四季を装飾的に描いた板画『柳緑花紅頰』、故郷の田園風景を幻想的に描いた板画『鷺囀の柵』など、自然の姿を生き生きと表現している。

自然の美や生命への礼讃をこめて描かれた躍動感あふれる作品9点を紹介した。

展示室L 工藤甲人：春を待つ祈り

工藤甲人(1915－2011)は現在の弘前市百田に生まれ、戦後、新しい日本画を創り出そうとした美術団体、創造美術・新制作日本画部・創画会を活動の舞台とし、故郷津軽の風土に根ざし、夢幻の世界と現実の世界のはざまを漂う独特の画風を築き上げた。

今回の展示では、工藤甲人の戦後の出発点ともなった『蓮』、故郷を離れ中央に向かう転機となった鳥シリーズ『荊棘』、作者の芸術観を見事に体現させた『夢と覚醒』、そして東北人としての工藤甲人の心、絵を描く精神がそこに集大成された春夏秋冬の四部作『休息』『渴仰』『化生』『野郷仏心』など、その画業をたどるにふさわしい代表作10点を集めた。

展示室M 小島一郎 津軽 昭和32－36年

「青森駅から奥羽線に乗り、弘前の手前の川部駅で五能線にのりかえて、五所川原あるいは木造で下車して津軽半島に向かって北上する」。これが写真家の決まりの撮影行であった。

大正13年、青森市大町〔現：本町〕に、県内で最も古い写真材料商を営む家の長男として生まれた小島一郎(1924－1964)は、昭和30年代、青森県内をくまなく歩き、津軽の農村や厳冬の下北の風景を撮った写真家。若くして命を落とした小島が、写真家として活動した期間はおよそ10年にすぎない。しかし、その短い間に、独特の造形感覚と複雑な印画の技法によって、郷土への熱い思いに裏打ちされた印象的な写真の数々を残した。

青森県立美術館は、2005年に3000点以上に及ぶ小島の写真や資料を、遺族から寄託されている。

冬のとりわけ荒れた日を選んで撮影に出かけた小島一郎。「猛烈な吹雪に吹きつけられながら、十里余の道のりを休むまもなく歩きつづけながら、あるいは道あって道のない雪の吹き溜まりに落ちこんでもがいたりしながら――」過酷な撮影行は続けられた。

足しげく通った津軽地方西北部を被写体に、覆い焼きの技法を取り入れながら力強く焼き付けられた、小島一郎の作品26点を展示した。

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ × 縦 × 横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成21 年度収集美術資料

高山良策
羨望
1956
118.5×82.0
油彩・キャンバス
寄贈

高山良策
(題不詳)
1970
52.5×64.5
油彩・キャンバス
寄贈

高山良策
照葉樹林
1981
112.0×162.0
油彩
寄贈

高山良策
(題不詳)
1964
145.0×99.5
ミクストメディア
寄贈

高山良策
(題不詳)
130.0×164.5
ミクストメディア
寄贈

高山良策
ほんとうに見たいなら・・・
1976
194.0×130.3
油彩・キャンバス
寄贈

高山良策
(題不詳)
1964
131.5×91.5
石膏・パネル
寄贈

高山良策
(題不詳)
1965
107.0×91.0
石膏・パネル
寄贈

高山良策
風夜
1963
145.5×91.0
油彩・パネル
寄贈

高山良策
(題不詳)
1964
115.5×90.0
油彩・石膏・パネル
寄贈

高山良策
標高1613 m
1975
(39.0×54.0) マット窓寸
鉛筆・紙
寄贈

高山良策
(題不詳)
1977
(各) 25.0×35.5
鉛筆・紙
寄贈

高山良策
セミ人間石膏型
1965
石膏、樹脂
寄贈

高山良策
仮面
寄贈

林田嶺一
「満州ポップ」シリーズ
1983 -
ミクストメディア
寄贈

向井弘ほか
写真同人誌『イメージ』
(全20号/1972 -1985年)
1972 -1985
18.2×25.7
白黒写真/ CH 印画紙
寄贈

三国慶一
(題不詳)
1970年代前半頃
37.5×13.6×13.0
木彫
寄贈

三国慶一
(題不詳)
1970年代前半頃
36.0×13.2×14.1
木彫
寄贈

美術資料貸出状況

夏の展示

棟方志功の油絵—描写への情熱

貸出先

・財団法人棟方志功記念館

展示施設（会期）

・財団法人棟方志功記念館

（09 / 6 / 28 - 09 / 10 / 10）

貸出点数：1

作品名

・棟方志功「越後亀田長谷川邸の庭」

秋の展示

舞・謡・跳—躍動する天妃たち

貸出先

・財団法人棟方志功記念館

展示施設（会期）

・財団法人棟方志功記念館

（09 / 10 / 2 - 09 / 12 / 28）

貸出点数：1

作品名

・棟方志功「青森山之神図」

春の展示

版画から『板画』へ

貸出先

・財団法人棟方志功記念館

展示施設（会期）

・財団法人棟方志功記念館

（10 / 3 / 28 - 10 / 6 / 21）

貸出点数：2

作品名

・棟方志功「大和し美し 矢燕の柵」

・棟方志功「双天妃の柵」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。

また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

普及プログラム

創作支援のためのプログラム

1 コレクションワークショップ

(1)「怪獣デザインを考えよう」

美術館の人気アーティスト、成田亨さんは様々な怪獣をデザインしました。成田さんの作品をヒントに、自分だけの怪獣をつくってみよう。

日時：6月14日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップ

講師：美術館スタッフ

対象：小学生程度

定員：20名

料金：常設展示観覧料

参加者数：5名

(2)「あおり犬とともだちになろう」

美術館のシンボル、奈良美智さん作『あおり犬』はどこにもいけなくてさみしい子犬です。『あおり犬』に友達を考えてあげましょう。

日時：8月23日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップB

講師：美術館スタッフ

対象：小学生程度

定員：20名

料金：常設展示観覧料

参加者数：9名

(3)「色と線と形」

絵は色、線、形をつかって、いろんなものを表しています。色と線と形の組み合わせで、作品を作ってみましょう。

日時：10月18日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップA

講師：美術館スタッフ

対象：小学生程度

定員：20名

料金：常設展示観覧料

参加者数：16名

(4)「切ってはって絵をつくろう」

20世紀を代表する芸術家のひとりアンリ・マティスは、色と線の単純化をめざした結果、切り絵にたどりつきました。そんなマティスにならって、切り絵を作ってみましょう。

日時：11月15日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップA

講師：美術館スタッフ

対象：小学生程度

定員：20名

料金：常設展示観覧料

参加者数：13名

(5)「かたちをつくる」

絵や彫刻には目に見えるかたちそのまま表すだけではありません。コレクション展、展示室「祈りのかたち、瞑想の造形」を鑑賞して、たのしい、うれしいなど、自分の気持ちをかたちにしてみましょう。

日時：1月17日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップA

講師：美術館スタッフ

対象：小学生程度

定員：20名

料金：常設展観覧料

参加者数：7名

(6)「大きな絵をかこう」

美術館にある大きな絵『アレコ』。自分よりもずっと大きな紙に絵をかくのは、どんな感じがするでしょう？いろいろな道具を使って、みんなで大きな絵に挑戦します。

日時：3月21日（日）13：00－15：00

場所：ワークショップA

講師：美術館スタッフ

対象：小学生程度

定員：20名

参加料：常設展示観覧料

参加者数：39名

2 企画展・共催展関連ワークショップ

(1) [相田みつを展関連]

「だいじなことを書こう」

自分にとっての大事な言葉を探して考えて、書で表現してみましょう。大きな紙や色紙などに、自分の大事な言葉を書いてもらいます。

日時：7月5日(日) 10:00 - 15:00

場所：ワークショップB

講師：沢村澄子(書家)

対象：小学生~大人

定員：20名

料金：相田みつを全貌展観覧料

参加者数：30名

(2) [太宰展関連]

「カラフルなお面をつくる ー未来人と未来基地ー」

水彩絵具などいろいろな素材を使って、未来の姿を創造しながらお面や未来基地を作り、みんなで記念撮影を行います。

日時：8月30日(日) 10:00 - 16:00

場所：ワークショップB、屋外創作ヤード

講師：横山裕一(漫画家・イラストレーター)

対象：小学校4年生以上

定員：20名程度

料金：無料

参加者数：18名

(3) [馬場のぼる展関連]

「だれでもかけるマンガの描き方とおはなし」

馬場のぼると親交のあった漫画家・絵本作家の多田ヒロシさんが誰にでもかける簡単なマンガの描き方を伝授します。

日時：8月16日(日) 13:30 - 15:00

場所：ワークショップA

講師：多田ヒロシ(漫画家・絵本作家)

対象：どなたでも(親子での参加も可)

定員：20名程度

料金：無料

参加者数：32名

(4) [馬場のぼる展関連]

「蛍光ペンで絵本をマンガにする」

馬場のぼるの絵本『11ぴきのねこ』のストーリーを題材に、イメージをふくらませながら、蛍光ペンを使ってマンガを作ります。

日時：8月29日(土) 13:00 - 16:00

場所：ワークショップA

講師：横山裕一(漫画家・イラストレーター)

対象：中学生以上

定員：30名

料金：無料

参加者数：16名

(5) [馬場のぼる展関連]

「スタンプでおはなしをつくろう」

馬場のぼるの絵本に出てくる、ねこ、ぶた、たぬきなど、いろ

んな動物のスタンプを押して、おはなしを考えながらみんなで大きな絵を作りましょう。

日時：馬場のぼる展会期中毎日

場所：馬場のぼる展か展示会場内 展示室E

料金：無料 ※馬場のぼる展会場内で行いますので、高校生以上は展覧会チケットが必要です。

(6) [エジプト展関連]

「ガラスワークショップ ートンボ玉作りー」

古代エジプトで約4000年前からつくられていたというトンボ玉。今回のワークショップでは、細いガラス棒を束ねて金太郎あめのような文様を作るアマルガム技法で、オリジナルのトンボ玉を作ります。

日時：9月19日(土) 10:00 - 16:00

※所要時間20分。

場所：縄文時遊館

講師：石橋忠三郎(ガラス造形家)

対象：小学生以上

定員：20名

料金：800円

参加者数：21人

(7) [ラブラブショー関連]

「インスタレーション&ワークショップ “with / without me”」
詩的な建築活動で知られる松原慈と有山宙のユニット「assistant」が展覧会と出会い、企画展ラブラブショーの会期中、美術館B2Fロビーの踊場に、出品アーティストのユニークな資料室を作ります。

「ワークショップ “pick”」

「assistant」と一緒にオープン直前の展覧会に潜入。

内覧会からレセプションまで、レコーダー、カメラ、ビデオカメラなどを手に、会場のざわめきや、その場にいる出品アーティストの様子などを「採集」します。集められた素材は「assistant」が編集して、資料室に付け加えられます。

日時：12月11日(金) 16:00 - 19:30

場所：B2Fロビー ラブラブショー展示室内 他

講師：assistant (建築家)

対象：どなたでも

定員：10名

参加料：無料

参加者数：14名

「ワークショップ “release”」

「assistant」と一緒に雪などを使って、インスタレーションの素材を制作。資料室の空間を作り替えます。

日時：2月11日(木・祝) 13:00 - 16:00

場所：B2Fロビーの踊場 他

講師：assistant (建築家)

対象：どなたでも

定員：15名程度

参加料：無料

参加者数：19名

(8) [ラブラブショー関連]

「ラブラブネームホルダー&ネームタグ」

手仕事の靴作りで知られる造形作家・増満兼太郎さんを講師にお迎えし、一つの皮素材からペアの革製ネームホルダーとネームタグを作ります。手作りの風合い豊かな名札をつけると、持ち物への愛着がより深まることでしょう。完成したネームタグには、名前を書くことができますので、大切な方への想いをこめたプレゼントとしてもご利用いただけます。

日時：1月16日(土)

①10:00-12:00 ②13:30-16:00

場所：ワークショップA

講師：増満兼太郎 (House)

対象：中学生-大人

定員：各回10名ずつ

参加料：1,000円

参加者数：21名



p43 「カラフルなお面をつくる ー未来人と未来基地ー」



p43 「だれでもかけるマンガの描き方とおはなし」



p43 「ガラスワークショップ ートンボ玉作りー」



p42 ワークショップ「切ってはって絵をつくろう」



p43 「ワークショップ『release』」

スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋遺跡見学プログラム、鑑賞＋創作プログラム、オリジナルプログラム（学校の自主企画）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数					
			合計	小	中	高	特	
4月	203	203	0	0	0	0	0	0
5月	827	345	0	0	0	0	0	0
6月	1,132	219	0	0	0	0	0	0
7月	688	0	9	2	7	0	0	0
8月	129	98	3	2	1	0	0	0
9月	1,063	435	17	12	3	0	2	2
10月	827	0	15	7	4	3	1	1
11月	550	0	15	11	3	0	1	1
12月	236	0	5	5	0	0	0	0
1月	210	128	2	2	0	0	0	0
2月	15	0	1	1	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5,880	1,428	67	42	18	3	4	4

合計 7,308 人

お出かけ講座

県内各地の学校に出向き、当館の特徴やコレクション作品にまつわるエピソードの紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲームによる鑑賞体験や、鑑賞文を書くといった活動を通じ、来館の難しい学校の児童生徒等に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
8月7日	青森市立浅虫中学校	76
11月19日	弘前市立大和沢小学校	28
11月20日	青森市立三内小学校	56
11月25日	東北町立水喰小学校	32
11月26日	八戸市立美保野中学校	7
11月27日	弘前市立東小学校	65
11月30日	弘前市立百沢小学校	27
12月3日	青森市立三内小学校	59
12月8日	平川市立碓ヶ関中学校	50
12月10日	南部町立剣吉小学校	28
12月15日	南部町立福地小学校	20
12月17日	八戸市立白鷗小学校	87
12月21日	十和田市立大深内中学校	91
1月18日	県立弘前雙学校	5
1月19日	南部町立向小学校	33
1月26日	五所川原市立飯詰小学校	39
1月28日	中泊町立小泊小学校	18
2月1日	弘前市立堀越小学校	153
2月10日	深浦町立岩崎中学校	50
2月17日	十和田市立松陽小学校	51
2月19日	十和田市立南小学校	121

合計 1,096 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、利用促進を図るため、当館主催の教職員研修会、県総合学校教育センターや市町村教育委員会主催の教員研修会において、アートカードを使ったゲームを体験する演習を行った。

貸出し実績：27校

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野185	017-782-1919 fax 783-5244
青森市教育研修センター	青森市栄町1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市民図書館	十和田市西13番町2-8	0176-23-7808 fax 25-3838
むつ市立図書館	むつ市中央2丁目3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
北通り総合文化センター「ウイング」	大間町大字大間字内山48-164	0175-32-1111 fax 37-5110
八戸市美術館	八戸市番町10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、当館主催の研修会、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県立美術館	4月19日(日)	先生のための鑑賞講座(春・夏・秋・冬)	県立美術館	3
	8月9日(日)			4
	10月4日(日)			2
	1月10日(日)			1
県・市町村教育委員会と	7月23日(木)	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修(小・中学校) 教職一般 研修講座	県立美術館	64
	8月3日(月)	青森市教育委員会と共催 教職員初任者研修講座		10
	10月1日(木) -2日(金)	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座[鑑賞] -美術館と連携した鑑賞指導の在り方-		11
と教育研究団体等 共催	7月30日(木)	青森市小学校図画工作科研究部会 (夏季研修会)	県立美術館	98
	8月19日(水)	上北地方小学校図画工作科部会		26
	1月7日(木)	青森市小学校図画工作科研究部会 (冬季研修会)		70

合計 289 人

ファシリテーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導に当たるファシリテーター(自らの理解を促す人)を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成21年度3月末現在:18人

印刷物

スクールプログラムの周知及び活用促進のため、また、児童生徒配付用鑑賞補助資料として、以下のものを作成した。

- 1 教員用スクールプログラム利用ガイドブック
- 2 青森県立美術館ガイドブック(小学校高学年・中学生向け)

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるように常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

募集・登録

募集概要

募集期間：2009年2月25日～3月25日

応募条件：

- ・満18歳以上（2009年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：85人（年度末現在）

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月29日（水）10：00～16：00

内容：平成21年度事業概要及び活動内容説明

講演会「剥きかけのレモンと倒れたグラス ―静物画を読み解く―」聴講

「ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密展」鑑賞

第2回研修会 10月17日（日）13：30～15：00

内容：講話「県美の新発見」

「吉村作治の新発見！エジプト展」鑑賞（自由鑑賞）

2 サポート活動

- (1) 学芸（企画展関連イベント補助）
- (2) 教育普及（レクチャー、ワークショップの運営補助）
- (3) 舞台芸術（コンサート、ダンス上演等の補助）
- (4) 運営管理（資料整理等）
- (5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）
- (6) 自主企画イベント実施（自主企画コンサート等）

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ（M）を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ

一般会員：3,000 円

学生会員：2,000 円（学生のためのプログラム）

こども会員：500 円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：10,000 円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員A：50,000 円

コーポレート会員B：30,000 円

会員数（2010年3月31日現在）

一般会員：159 人

学生会員：7 人

こども会員：15 名

特別会員：22 人

コーポレート会員B：1 人

計 204 人

事業内容

（一般会員・学生会員・こども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を2枚配付するほか、いつでも前売料金にて観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を6枚配付するほか、いつでも前売料金にて観覧可
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展無料招待券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3-4回、美術館スケジュール等のご案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

各種行事の企画・実施

museumlounge（ミュージアムラウンジ）

会員限定のプログラム。学芸員による鑑賞ツアーや展覧会オープニングセレモニーへの招待など、会員との交流を行うもの。

- ・「静物画の秘密展 オープニングセレモニー・レセプション招待」
2009年4月10日（金）
- ・「静物画の秘密展 鑑賞ツアー」
2009年4月11日（土）、12日（日）、19日（日）
- ・「静物画の秘密展関連ピアノコンサート招待」
2009年4月11日（土）
- ・「春のコレクション展 鑑賞ツアー」
2009年4月12日（日）、19日（日）
- ・「ラブラブショー展 オープニングセレモニー・レセプション招待」
2009年12月11日（金）
- ・「ラブラブショー展・冬のコレクション展 鑑賞ツアー」
2010年1月27日（水）、31日（日）

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

ドラマリーディングクラブ

概要

県立美術館がこれまで実施してきた、県民参加型演劇・ダンス事業等を更に発展させ、県立美術館の独自性を県内外にアピールし、更には県立美術館から先駆的な舞台芸術文化を発信するため、「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ」を発足。

県立美術館シアター・スタジオを基本とした自主公演の他、県立美術館主催の展覧会等の関連イベントに積極的に参画し、県立美術館の「全ての芸術の融合」と「県民が参加できる美術館」というミッションの独自性をゆるぎないものとするため、ドラマリーディング公演を行った。なお、運営は全て自主財源（入場料収入）にて行った。

募集資格：

- ①青森県立美術館での稽古に参加できること。
- ②年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ③年間に最低1公演には参加できる。
- ④交通費や食費等、活動に際して個人に係るものは全て自己負担となる。

活動場所：青森県立美術館施設内を基本とする。

公募開始：2009年5月18日（月）

募集定員：50名（随時募集。定員になり次第締め切る。但し、欠員が出た場合は補充する。）

募集方法：申込用紙の郵送・FAX・E-mailによる応募。

（申込用紙は、青森県立美術館ホームページからもダウンロード可能。）

参加料：無料（交通費・食費等の個人に係るものは全て自己負担となる。）

選考方法：書類選考とし、書類を受理後随時面談を行う。

稽古内容・日程：

- ①青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ②自主公演に向けた稽古を実施する。
- ③青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ④その他公演に向けた稽古を実施する。
- ⑤週1回の稽古を基本とする。公演1週間前は毎日稽古を行う。

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

演出：田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術アシスタント）

舞台監督・音響：野村眞仁

照明：野村眞仁 中村昭一郎

運営主体：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

自主公演入場料金：500円（一律）

公演内容

（1）自主公演 [有料公演]

オリジナルの戯曲・既成の詩・小説、その他の文章を使い、公演を行った。

①第1回自主公演『走れメロス』『回廊の光』

日時：2009年10月4日（日）14：00開演

（※上演時間は40分）

会場：青森県立美術館シアター

原作：

太宰治『走れメロス』

構成/長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

『回廊の光』

脚本/田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術アシスタント）

出演者：金恵美子 須藤哲也 長尾秋人 鈴木希生子

山形クニ子 秋田俊行 横山美樹 本間正子 逢坂久美子

會津悦子 松岡こずえ 濱野有希 小笠原真理子

客席数：200席

観客動員数：120名

観客動員率：60%

②第2回自主公演『掌の小説』

日時：2009年12月26日（土）14：00開演

（※上演時間は40分）

会場：青森県立美術館シアター

原作：

川端康成『掌の小説』

構成/田邊克彦（青森県立美術館舞台芸術アシスタント）

出演者：金恵美子 須藤哲也 長尾秋人 田中昌子

鈴木希生子 川嶋真美 秋田俊行 横山美樹 本間正子

會津悦子 木村朋子 越田俊子 小野寺圭子 工藤佳子

田中由美

客席数：200席

観客動員数：70名

観客動員率：35%

③第3回自主公演『中原中也とアルチュール・ランボー』

日時：2010年3月27日(土) 14:00 開演

(※上演時間は40分)

会場：青森県立美術館シアター

原作：

中原中也『山羊の歌』『在りし日の歌』『ランボウ詩集』

構成/ 田邊克彦(青森県立美術館舞台芸術アシスタント)

出演者：須藤哲也 長尾秋人 田中昌子 川嶋真美 秋田俊行

成田明子 横山美樹 本間正子 逢坂久美子 小野寺圭子

大石彩也香 工藤佳子

客席数：200席

観客動員数：60名

観客動員率：30%

(2) 青森県立美術館企画サポート公演 [無料公演]

「青森県立美術館の企画展等をテーマ」及び「県立美術館の教育・普及活動に寄与する」ことをテーマに公演を行った。

①サポート公演「馬場のぼる展」関連企画『11 びきのねこ』シリーズドラマリーディング

日時：2009年8月2日(日) 13:00 / 15:00

2009年8月9日(日) 13:00 / 15:00

2009年8月22日(土) 13:00 / 15:00

(※上演時間は20分)

会場：青森県立美術館・企画展示室A

原作：

馬場のぼる「11 びきのねこ」シリーズより『11 びきのねこ』

『11 びきのねことあほうどり』『11 びきのねことへんなねこ』

構成/ 田邊克彦(青森県立美術館舞台芸術アシスタント)

出演者：金恵美子 須藤哲也 長尾秋人 田中昌子 斎藤ミツ

田中弘美 吉町友美 鈴木希生子 山形クニ子 川嶋真美

齊藤知代子 秋田俊行 成田明子 横山美樹 本間正子

逢坂久美子 會津悦子 田澤京子 木村朋子

客席数：100席

観客動員数：計733名

観客動員率：122%

(3) 出張公演 [無料公演]

ドラマリーディングクラブを広く周知するため、青森県立美術館以外の施設を使用し公演を行った。

①青森県生涯学習フェア2009 出張公演『あおり犬のおはなし』

日時：2009年9月26日(土) 11:40 / 14:30

(※上演時間は20分)

会場：青森県社会教育センター スタジオ

脚本：長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

出演者：田中昌子 斎藤ミツ 吉町友美 鈴木希生子

川嶋真美 齊藤知代子 秋田俊行 成田明子 横山美樹

越田俊子 小野寺圭子 大石彩也香

客席数：40席

観客動員数：計40名

観客動員率：50%

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲出を依頼した。また、県内各地の劇団公演等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、新聞各社への告知・公演開催様子の取材依頼、テレビ・ラジオへの告知依頼を行った。

・宣材物作成枚数：

参加者募集チラシ (A4版) 3,000枚

公演チラシ (A4版) 3,000枚

・宣材物配布先：

県内文化施設、青森市・弘前市の中心市街地商店街各店舗。

・記録：各公演とも、記録映像収録。

・チケット販売：

第2回自主公演より、県内プレイガイド2箇所販売を委託。

サンロード青森、青森県立美術館ミュージアムショップ



ドラマリーディング「11 びきのねこ」公演



ドラマリーディング「出張公演」

ダンス

ダンスアレコ青森バージョン制作事業

概要

青森県立美術館の恒久的な演目として『Dance Aleko AOMORI』を制作し且つ長期的に上演することを目的に、県内のダンスカンパニー6団体と長谷川孝治青森県立美術館舞台芸術総監督が、本館が所蔵するバレエの背景画「アレコ」の原作であるアレクサンドル・プーシキン「ジプシー」をテーマに実験的なダンス作品を計6本上演するプロジェクト。

今年度は3団体のカンパニーと制作を行ったほか、作品制作及び上演の過程で、随時適材を選抜し、22年度に向けた出演交渉を行った。

脚本：アレクサンドル・プーシキン「ジプシー」

構成/演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

助成：財団法人 地域創造

宣伝美術：デザイン工房エスパス

入場料金：

前売：ペア券（一般2名）4,000円

一般券（大人）2,300円

（学生）1,000円

（高校生以下）800円

※当日券は全て500円増し

【客席数】360席

来場者サービス

・託児サービス：

各公演の開場から終演までの間、お子様1名につき200円で託児サービスを実施。

・カフェ「4匹の猫」臨時営業：

12月12日（土）、2月13日（土）に限り、17:00から19:00（ラストオーダー18:30）まで臨時営業を実施。

・シャトルバス運行：

夜20時以降終演の公演に限り、青森県立美術館から青森駅までのシャトルバスの運行を実施。

公演内容

①Dance Aleko Aomori Lab' #4『AOMORI 花嵐桜組』

全国的に知名度の高い『AOMORI 花嵐桜組』が、よさこいとモダンダンス・和太鼓とともに、美術館野外『八角堂』トレンチとシアターで上演した。

日時：2009年10月24日（土）19:00開演

10月25日（日）14:00開演

（上演時間は80分）

会場：青森県立美術館シアター（一部野外）

振付：小野郁子

衣裳制作：桃庵

出演者：

アレコ：青木智也（GOGO S& クワザワグループ）

アレコの心の声：武井浩一（日本郷土芸能研究保存会）

ゼムフィーラ：斎藤素子 諏訪田希子 花田真規子

乳井むつこ 笥葉子 佐山祐理子 森山郁美 小野郁子

ゼムフィーラの父：伊藤文彦

若い男：田口大

ジプシーたち：濱中葉子 笹ゆかり 平川美奈 尾崎香織

中濱史子 星玲子 棟方真紀子 澤田絵美 佐藤隆子

山本亜紀恵 横山玲子 藤井純子 佐藤久美子 早津静子

長尾静子

縄文の里の人々：二川原綾子 野呂淳一 山本純 石岡正樹

石岡友紀 平川一二三

ナレーション：

アレコ 林久志 ゼムフィーラ 小笠原真理子

ゼムフィーラの父 福士賢治

若いジプシー 田邊克彦 語り 今ゆきこ

観客動員数：計396人

観客動員率：110%

②Dance Aleko Aomori Lab' #5『中村虎治社中』

日本舞踊界で、歴史と伝統のある『中村虎治社中』が、古典と創作を交えて、クラシック音楽を使用した公演を行った。

日時：2009年12月12日（土）19:00開演

12月13日（日）14:00開演

（上演時間は80分）

振付：中村流十世家元七代目 中村虎治

音楽：ウィリアム・ロイド・ウェッバーの作品 他

音楽監修：浅野清

振付補助：中村登茂千寿

出演者：

阿礼児（アレコ）：中村登世裕

善比羅（ゼムフィーラ）：中村登世之丞

黒子：中村登茂千寿 中村登世花寿

宮廷人：中村登茂音 中村登茂富士 中村登世静

中村登世太郎 津幡幸子 長谷川利子 山本みつ 盛美穂

若い女：中村登世恵

若い男：中村登世樹

傾者：中村登世元 土岐志麻 佐々木喜美子 漆戸千雅子

藤盛由果

こども：鳥谷部七恵 西川晴菜 秋元穂華 吉田華菜子

吉田莉彩子 佐々木来

胡蝶：土岐夢華 佐々木はりな

観客動員数：計313人

観客動員率：87%

③ Dance Aeko Aomori Lab' # 6 豊田一輪車クラブ

世界的レベルを誇る『豊田一輪車クラブ』と青森で活躍する俳優『野津こうへい』が、語りと、繊細かつダイナミックな一輪車で公演を行った。

日時：2010年2月13日（土）19：00 開演

2月14日（日）14：00 開演

（※上演時間は80分）

振付：木村笑子

出演者：豊田一輪車クラブ

アレコ：松田良平

ゼムフィーラ：猪俣南 寺田伽藍

若いジブシー：石田祐 豊澤賢也

ジブシーたち：横倉千愛 石川暁乃 澤谷真莉 杉沼由衣

丹藤優歩 福士実波 柳田真歩 奈良岡風咲 石田樹里

青山千春

天使たち：山内芽生子 齋藤舞海 丹代千尋 成田智陽

老人：野津こうへい

観客動員数：計362人

観客動員率：101%

広報宣伝、営業等概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地の舞台芸術イベント等への折込、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、新聞各社への告知・公演開催の様子の取材依頼、テレビ・ラジオへの告知依頼、県内各広報誌において告知依頼を行ったほか、マスコミ公開稽古及び公開リハーサルを行った。

・宣材物作成枚数：

チラシ (A4版) 5,000枚

(B3版) 100枚

ポスター (B2版) 100枚

・宣材物配布先：

県内文化施設、県内公立小中高等学校、県内大学・専門学校、青森市・弘前市・八戸市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店、各ダンス教室

・チケット販売：

各公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。県内は主要プレイガイド9箇所に販売を委託。

サンロード青森、さくら野青森店、成田本店しんまち店、紀伊國屋書店、弘前大学生協、日弘楽器、三春屋、長崎屋、青森県立美術館ミュージアムショップ

・記録：

各公演とも、記録写真撮影、記録映像収録、DVD制作を実施。



Dance Aeko Aomori Lab' # 4



Dance Aeko Aomori Lab' # 6

音楽

青森県立美術館アレコホール定期演奏会 2009 - 2010 楽の音・日本の音

概要

アレコホールコンサートを、海外（東アジア）へ広く発信し、「すべての芸術の融合を目指す美術館」という県立美術館のミッションを遂行し、東アジアにおけるユニークな美術館というステイタスを目指す他、様々な楽器の演奏を行い、アレコホールの可能性を探るため、国内外で活躍する多彩なジャンルの演奏家によるコンサートを実施した。また、音楽や芸術を楽しむ心を育む機会を提供するため青森県内の小中学生を招待するプログラムを開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館

助成：財団法人地域創造

日時：期日は下記公演詳細のとおり

各回とも18:30 開場 19:00 開演

会場：青森県立美術館アレコホール

料金：（前売り）

プレミアム回数チケット

上半期 8,000 円

下半期 6,000 円

ベア 3,500 円

一般 2,000 円

学生 1,500 円

小・中 1,000 円

※ 当日券は全て500 円増し

来場者サービス

・託児サービス：

各公演の開場から終演までの間、お子様1 名につき200 円で託児サービスを実施。

・カフェ「4匹の猫」臨時営業：

17:00 から19:00（ラストオーダー18:30）までの臨時営業を実施。

・シャトルバス運行：

青森県立美術館から青森駅までシャトルバスの運行を実施。

・ドリンク販売：

20 分間の休憩時にドリンク販売を実施。

・待合場の提供：

美術館シアターを開場までの待合場として提供。

・美術館鑑賞割引：

「楽の音・日本の音」のチケットをお持ちの方は、公演日に開催されている「常設展」「企画展」を団体割引で鑑賞できることとした。

広報宣伝、営業等概要

演奏会宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内文化施設、教育機関等、県内道の駅、県内音楽教室、県内音楽団体、各商店街等を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、ダイレクトメールの配布を実施した。

また、小中学生無料御招待を行うため宣材物としてチラシを作成し、県内小・中学校等への配布を実施した。

・宣材物作成枚数：

「楽の音・日本の音」チラシ	(A4 版)	30,000 枚
ポスター	(B2 版)	100 枚
	(B3 版)	500 枚
「小中学生無料御招待」チラシ	(A4 版)	50,000 枚

・宣材物配布先：

県内文化施設、県内公立小中高等学校、県内大学・専門学校、県内道の駅、県内音楽教室、県内音楽団体、青森市・弘前市の中心市街地商店街各店舗、県内大手スーパー、県内各書店へ掲示を依頼。

・広報：

新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。

テレビ・ラジオにおいて、告知依頼。

その他、県内各広報誌において告知依頼。

・記録：

各公演とも、記録映像収録、DVD 制作を実施。

・チケット販売：

各公演とも、全国展開としてローソンチケットに販売を委託。県内は主要プレイガイド8箇所販売を委託。

弘前大学生協/ サンロード青森/ さくら野青森店/ 成田本店しんまち店/ 日弘楽器/ グルーヴィン楽器本店/ 青森県立美術館ミュージアムショップ



楽の音チラシ

1月	アウレオ弦楽四重奏団 ヴァイオリン 菊地恭江 ヴァイオリン 庄司恵子 ヴィオラ 高木和男 チェロ 太田陽子 cf. 浅野清	136 (68%)
	ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 「弦楽四重奏曲 第14番 ト長調 K387」 ロベルト・シューマン 「ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44」	
2月	TPS (音楽劇) 札幌 春の夜想曲：演劇、ピアノ、チェロでの上演 (会場：シアター)	100 (50%)
3月	リュミエールトリオ	180 (90%)
	チャイコフスキーピアノトリオオーディション合格者 モーリス・ラヴェル「ピアノ三重奏曲 イ短調」 ビョートル・チャイコフスキー「ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50『偉大な芸術家の思い出のために』」	

全体観客動員率 86%

関連ワークショップ (会場：スタジオ) 参加無料

月	講師 内容	受講者数 (参加率)
9月	今田 匡彦 (弘前大学教育学部音楽教育講座教授) サウンド・エデュケーション (定員20名で募集) 前半でサウンドスケープ、音楽、芸術、身体について講演。後半でエクササイズを行う。	27 (137%)
	ガブリエーレ・ブロイ (サウンドアーティスト) サウンドスケープコンポジション (定員20名で募集) 日常の音を切り取り作曲した作品を聴きながらレクチャーを受け、「音の風景 (サウンドスケープ)」を体感する。	
10月	ガブリエーレ・ブロイ (サウンドアーティスト) サウンドスケープコンポジション (定員20名で募集) 日常の音を切り取り作曲した作品を聴きながらレクチャーを受け、「音の風景 (サウンドスケープ)」を体感する。	40 (200%)

参加率 173%

公演詳細・入場者数

月	演奏家 内容	動員数 (入場率)
6月	渋谷由美子 (ヴァイオリン) 元仙台フィルハーモニーコンサートマスター ペーラ・バルトク「ルーマニア民族舞曲」 團 伊玖磨「ファンタジア 第1番 〜ソロヴァイオリンと ピアノのための〜」 ガブリエル・フォーレ「ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ 長調 作品13」 リッツ・クライスラー「愛の悲しみ (ウィーン古典舞曲集Ⅱ)」 「愛の喜び (ウィーン古典舞曲集Ⅰ)」	240 (120%)
	西沢澄博 (オーボエ) 仙台フィルハーモニー管弦楽団 cf. 大塚晴津子 フランシス・ブーランク「オーボエとピアノのためのソナタ」 モーリス・ラヴェル「ハバネラ形式の小品」 カール・ニールセン「2つの幻想的小品 作品2」 ベンジャミン・ブリテン「オヴィディウスによる6つの変容 作品49 (オーボエソロのための)」 ヤン・カリヴォダ「サロンの小品 作品228」	
7月	田中康盟 (尺八) 琴古流師範 琴古流尺八「月の曲」/ 柘屋正邦作曲「流露」 琴古流尺八「鹿の逸音」/ 琴古流尺八「下り葉の曲」 錦風流尺八「下り葉」/ 琴古流尺八「巢鶴鈴慕」	138 (69%)
8月	藤井千代賀 (箏) 山田流箏曲藤井家三代目家元 八橋検校「六段調」/ 二代山本大賀「夏の詠」/ 河東節「鐘踊」/ 山田検校「江の島曲」/ 吉沢検校「千鳥曲」	122 (64%)
9月	山本真 (ホルン) 元NHK交響楽団員 飯塚一郎 (トランペット) 元東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者 和田美亀雄 (トロンボーン) 元東京芸術大学管弦楽研究部首席奏者 cf. 浅野清	203 (102%)
10月	レナード・バーンスタイン「リフェイのためのロンド」 ジャック・バラ「オリエンタル」 ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル「アレグロ」 ウジェーヌ・ボザ「冗談」 エドワード・ルウェリン「マイ・リガーズ」 ゲオルク・クリストフ・ヴァーゲンザイル「アルト・トロンボ ーンのための協奏曲 変ホ長調」 他	196 (98%)
	大石祥之 (チェンバロ) ヨハン・セバスティアン・バッハ「イギリス組曲 第4番 ヘ長調 BWV809」/ フランソワ・クーペラン「クラヴサン曲集第2巻 1716年第 6 オルドゥル から」/ ドメニコ・スカッラッティ「6つのソナタ」	
11月	北山敦康 (サクソフォン) 静岡大学教授 Pt. 石川眞佐江 ナザール・ベックマン「エレジーop.14」 ジャコモ・プッチーニ「トスカ・ファンタジー」 ポール・ボノー「組曲」[「ワルツ形式によるカプリス」] ヴィクター・モロスコ「ブルー・カプリス」 寺内大輔「『王の主題』-サクソフォンのために」 大政直人「『ダンスミュージック』-アルトサクソとピアノ のための」 安部幸明「アルトサクソフォンとピアノのためのデ ィヴェルティメント」	115 (58%)
12月		143 (72%)

チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション ～偉大なる芸術家の思い出に～開催

概要

募集目的：

青森県立美術館が所蔵するバレエの背景画「アレコ」は、チャイコフスキーのピアノトリオにインスパイヤーされて、レオニード・マシーンが振付をし、シャガールが舞台美術を担当したものであり、背景画が舞台美術として生きた時代を観客に伝えることを目的に、本物の舞台背景画3幕と空間を共有するコンサートを開催するため、チャイコフスキーの「ピアノトリオ イ短調 作品50 “偉大なる芸術家の思い出に”」の演奏者を募集し、音楽事業「楽の音・日本の音」演奏会に出演。

資格：

- ・参加者の国籍・居住地・年齢・プロ・アマチュアの別を問わない。
- ・オーディションに合格者した場合、平成22年3月13日（土）に同館での公開演奏会でチャイコフスキーのピアノ・トリオ全楽章を含む50～70分のプログラムを持って演奏が可能な方。

旅費・宿泊費について：

- ・オーディション参加者へは、自宅から青森県立美術館までの交通費を支給します。
※但し、一組につき5万円を上限とし、それを越えた場合は自己負担とします。
- ・宿泊費は参加者負担となります。

選考方法：

- ・演奏作品はチャイコフスキー「ピアノ・トリオ」とした。
- ・オーディションでの演奏楽章は当日指定。
- ・公開オーディションの行われる青森県立美術館に来て指定の時間に演奏する。
- ・公開オーディション参加者は30組とし、それを越える応募があった場合は、書類審査を実施する。

審査委員：

- ・浅野 清（弘前大学教授）
- ・渋谷由美子（元仙台フィルコンサートマスター）
- ・長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）
- ・間瀬利雄（チェリスト・元東京シティフィル首席奏者）

オーディション申込受付期間：

2009年5月1日～11月20日

公開オーディション開催日：

2009年12月23日（水・祝）

応募状況

- ・応募数 20組（60名）
 - ・参加者数 17組（51名）
 - ・辞退者数 3組（9名）
- 辞退理由：故障者等

※日本の各地区の演奏家の他、韓国・フランス・台湾（アメリカ在住）などの演奏家

広報

- ・全国のクラシック関係の雑誌に（掲載費無料のページ）募集の掲載を依頼。
- ・全国紙の新聞への募集掲載。（スタッフが直接交渉）
- ・全国の音楽関係の学校・コンサートホール等へ、チラシ・ポスターを掲示・掲出。
- ・首都圏を中心にクラシックコンサート開催イベントにチラシの折込みを依頼。

来場者サービス

公開オーディションで行い、常設展の観覧チケットをお持ちの方のみ鑑賞できることとした。

最優秀組

トリオ名：リュミエールトリオ

プロフィール

大伏 啓太（ピアノ）※グループ代表者 東京都在住。

5歳よりピアノを始める。1995年、桐朋学園「子供のための音楽教室」仙台教室に入室。2003年、第57回全日本学生音楽コンクールピアノ部門高校の部全国大会第1位。2006年、第75回日本音楽コンクールピアノ部門第3位。2009年東京芸術大学卒業時に同声会賞、読売音楽新人賞を受賞。

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、現在同大学大学院修士課程1年に在学中。

これまでにピアノを庄司美知子、菅野潤、多美智子の各氏に師事。

小関 郁（ヴァイオリン）千葉県在住。

5歳よりヴァイオリンを始める。2003年第13回日本クラシック音楽コンクール全国大会第4位。2007年市川市文化会館新人演奏会オーディション優秀賞。2009年東京芸術大学卒業時に同声会賞を受賞。同声会新人演奏会に出演。東京芸術大学付属音楽高等学校、同大学を経て、現在同大学大学院修士課程1年に在学中。

これまでヴァイオリンを益田吾郎、吉村知子、松原勝也の各氏に、室内楽を岡山潔、山崎伸子、佐々木亮の各氏に師事。

加藤 陽子（チェロ） 東京都在住。

5歳よりチェロを始める。2000年札幌ジュニアチェロコンクール優秀賞。2002年第2回泉の森ジュニアチェロコンクール高校生以上の部金賞。2006年第7回ビバホールチェロコンクール第3位。東京芸術大学内にて福島賞、安宅賞、同声会賞受賞。芸大フィル、東京芸大チェンバーオーケストラと共演。

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、現在同大学大学院修士課程1年在学中。

これまでにチェロを中島顕、寺田義彦、河野文昭、山崎伸子の各氏に、室内楽を岡山潔、山崎伸子の両氏に師事。



オーディション通過者

映画

概要

美術館シアター等の施設の活用等を目的として、美術館所蔵のライブラリー（著作権処理済みDVD）の中から月一回の頻度で開催する定期上映会を実施した。上映する作品の選定においては、企画展・常設展等美術館の事業に関係する作品や、日ごろ目にする機会の少ない作品を中心に選定した。

会場：青森県立美術館シアター

料金：無料

上映内容詳細・入場者数

月	上映作品	観客動員
4月	淀川長治映画史 第1集、第2集	37
5月	淀川長治映画史 第3集、第4集	40
6月	淀川長治映画史 第5集、第6集	50
7月	大地のうた：監督 サタジツ・レイ	43
8月	大河のうた：監督 サタジツ・レイ	40
9月	大樹のうた：監督 サタジツ・レイ	40
10月	阿賀に生きる：監督 佐藤真	40
11月	阿賀の記憶：監督 佐藤真	52
12月	まひるのほし：監督 佐藤真	40
1月	花子：監督 佐藤真	39
2月	エドワード・サイド：監督 佐藤真	43
3月	保育園の日曜日 映画監督佐藤真の軌跡 監督 佐藤真	40

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム・フリーアトリエ

博物館実習

情報システム

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

美術館施設を展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76 m ²)	2,130 円	3,400 円	1 時間 850 円
B (60.47 m ²)	880 円	1,400 円	1 時間 350 円
C (131.30 m ²)	1,880 円	3,000 円	1 時間 750 円

※1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とする。

※2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合がある。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70 m ²)	2,500 円	4,000 円	1 時間 1,000 円
B (140.39 m ²)	2,000 円	3,200 円	1 時間 800 円
C (389.51 m ²)	5,500 円	8,800 円	1 時間 2,200 円
D (228.06 m ²)	3,250 円	5,200 円	1 時間 1,300 円
E (105.91 m ²)	1,500 円	2,400 円	1 時間 600 円
映像室 (70.38 m ²)	1,000 円	1,600 円	1 時間 400 円

※1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とする。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料
シアター (220 席) (348.20 m ²)	1 時間 2,400 円
映写室 (36.36 m ²)	1 時間 260 円
アナウンスブース (6.35 m ²)	1 時間 50 円
ワークショップA (124.38 m ²)	1 時間 900 円
ワークショップB (185.28 m ²)	1 時間 1,300 円
暗室 (22.45 m ²)	1 時間 160 円
スタジオ (100.98 m ²)	1 時間 720 円
映像編集室 (24.77 m ²)	1 時間 180 円
スタジオ映写室 (28.88 m ²)	1 時間 210 円

※1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とする。

※2 暗室は、ワークショップAを利用する場合、又はワークショップAが利用されていないとき使用できる。

※3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できる。

※4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できる。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできない。
- ・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできない。

② シアター等

- ・1日単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできない。

※ 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できない。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において、必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとする。

(4) 使用時間

使用時間は、美術館の開始時間 [9時30分から17時まで (6月-9月は、9時から18時)] とし、各施設の取扱は以下のとおりとする。

① 展示施設

9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とする。

② シアター等

1時間単位での使用とする。

■企画展示室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
6/21 - 7/21	青森朝日放送(株)	相田みつを全貌展	A B C E	13700
9/15 - 11/27	(株)青森テレビ	吉村作治の新発見! エジプト展	A B C D E 映像室 シアター 映写室	76516

■コミュニティーギャラリー

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
7/3 - 7/5	(株)阿部重組	第7回未来をのぞく住宅展	A B C	204
7/17 - 7/21	第13回日象青森展	日本表象美術協会青森支部	A C	279
8/29 - 8/30	住友生命青森支店	第33回スミセイこども絵画コンクール	A B C	1,500
8/30 - 9/7	麻生知子	麻生知子・武内明子 二人展	B	336
9/10 - 9/17	(株)東奥日報社	第37回日本の書展	A B C	1,318
9/18 - 9/23	「青森の自然」音楽・写真展実行委員会 代表者 加藤明	第5回「青森の自然」スライドショーコンサート	A B C スタジオ	1,512
9/24 - 9/27 9/30 - 10/5	(社)青森県文化振興会議	第50回青森県美術展覧会 県展2009	A B C	2,970
10/9 - 10/11	MOA美術館青森児童作品展実行委員会 実行委員長 岸里フミエ	MOA美術館青森児童作品展	A B C シアター 映写室	1,580
11/27 - 11/29	(株)阿部重組	第8回未来をのぞく住宅展	A B C	417
12/4 - 12/5	青森中央短期大学	第39期卒業記念公演	A B C スタジオ	242
1/7 - 1/12	ドアドアラウンド青森 代表 佐藤智子	心の中の美術館 創作工房ほ・だあちゃ展「扉のむこう」	A B C	600
3/5 - 3/7	(株)阿部重組	第9回未来をのぞく住宅展	A B C	227
3/10 - 3/15	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター「活動展」	A	150

■シアター・映写室

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/26	CSS Ntein Aomori 実行委員会	CSS Ntein AOMORI	シアター 映写室	146
5/21	青森大学ソフトウェア情報学部	キックオフミーティング「デジタルワールドへの誘い」	シアター 映写室 コミュニティーギャラリーC	
5/24	NHK青森放送局	朗読練習会「叫べ! 100人の走れメロス」	シアター 映写室	
6/21	@ あおもり映画祭実行委員会	第18回あおもり映画祭	シアター 映写室	
9/6	(有)結	カフラオハワイ 窪川京子青森ライブ	シアター 映写室 スタジオ	
10/11	青森県教育委員会	青森の縄文フォーラム	シアター 映写室	
11/2 - 11/3	(有)弘前劇場	弘前劇場公演「アグリカルチャー」	シアター 映写室	
2/6	文化芸術による創造のまちあおもり実行委員会	文化芸術による創造のまちあおもり プロジェクト・シンポジウム	シアター 映写室	88

■ワークショップ

使用	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/25、5/9、5/23、 6/6	B Plains 代表 蒔苗正樹	B Plains ワークショップ	A	45
7/11、7/18、8/1、 8/15、9/5	B Plains 代表 蒔苗正樹	B Plains ワークショップ	A	75
7/30	図画工作科研究会夏季研修会	青森市小学校教育研究会図画工作科研究会	B	98
7/31	総合販売戦略課	「買ってもらえる商品づくり支援事業」商品選定会	B	21
8/19	上北地方小学校教育研究会図画工作科部会 「美術館との連携プログラム」	野坂佳孝	B	20
8/22 - 8/23	北村会 会長 小池幸雄	ねぶた面製作講習会	A	160
9/6	(株)ドワーフ	みんなでつくろう! えいごのどうぶつアルファベットワークショップ	A	61
9/16	総合販売戦略課	第4回決め手塾	B	42
10/1 - 10/2	青森県総合学校教育センター	図画工作・美術科教育講座【鑑賞】	A	38
10/3、10/17、11/28	B Plains 代表 蒔苗正樹	B Plains ワークショップ	A	45
1/7	図画工作科研究会冬季研修会	青森市小学校教育研究会図画工作科研究会	B	60
2/13、2/27	B Plains 代表 蒔苗正樹	B Plains ワークショップ	A	30
3/13、3/27	B Plains 代表 蒔苗正樹	B Plains ワークショップ	A	30

合計 102,510 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームではおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2 台、図書閲覧席 20 席

開館日・開室時間：美術館開館日の10：00－16：00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1－3を理解するために必要なものを、購入および寄贈により収集した。

蔵書数

(平成20 年度3 月末現在)

・美術図書	1,769 冊
・デザイン・建築関係図書	250 冊
・写真関係図書	145 冊
・絵本・イラスト関係図書	946 冊
・民族・歴史関係図書	122 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	166 冊
・展覧会カタログ	3,381 冊
・雑誌 (52 タイトル)	1,004 冊

(平成21 年度登録分)

・美術図書	786 冊
・デザイン・建築関係図書	152 冊
・写真関係図書	61 冊
・絵本・イラスト関係図書	238 冊
・民族・歴史関係図書	87 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	82 冊

・展覧会カタログ	3,310 冊
・雑誌 (37 タイトル)	1,783 冊

(平成21 年度3 月末現在)

・美術図書	2,555 冊
・デザイン・建築関係図書	402 冊
・写真関係図書	206 冊
・絵本・イラスト関係図書	1,183 冊
・民族・歴史関係図書	209 冊
・音楽・映画・舞台関係図書	248 冊
・展覧会カタログ	6,691 冊
・雑誌 (57 タイトル)	2,787 冊

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

美術に関するポスターやチラシの設置

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：339 日

利用者数：10,012 人

レファレンス利用件数：35 件

図書室利用統計表

	開室日数 (日)		入室者数 (人)		レファレンス	
	月計	月計	1 日平均	月計	1 日平均	
4 月	28	509	18.2	3	0.1	
5 月	30	1,030	34.3	5	0.2	
6 月	29	694	23.9	2	0.1	
7 月	30	851	28.4	2	0.1	
8 月	31	1,881	60.7	5	0.2	
9 月	25	1,221	48.8	4	0.2	
10 月	29	1,114	38.4	3	0.1	
11 月	28	1,254	44.8	2	0.1	
12 月	26	282	10.8	1	0.0	
1 月	29	337	11.6	1	0.0	
2 月	26	433	16.7	2	0.1	
3 月	28	406	14.5	5	0.2	
計	339	10,012	29.5	35	0.1	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム・フリーアトリエ

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」及びワークショップ前廊下のスペースを利用した「フリーアトリエ」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、800冊以上の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木などを楽しめる空間で、また、「フリーアトリエ」は、紙や粘土などを常置き、お絵かきやものづくりを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的に行っている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日
10：00－15：00

- (4) 2009年7月26日（日）10：00－11：00
参加者数：180人
- (5) 2009年8月22日（土）14：00－15：00
参加者数：19人
- (6) 2009年9月26日（土）14：00－15：00
参加者数：11人
- (7) 2009年10月24日（土）14：00－15：00
参加者数：11人
- (8) 2009年11月28日（土）14：00－15：00
参加者数：13人
- (9) 2010年1月23日（土）14：00－15：00
参加者数：6人
- (10) 2010年2月27日（土）14：00－15：00
参加者数：15人
- (11) 2010年3月27日（土）14：00－15：00
参加者数：11人

平成21年度 キッズルーム利用実績

	開室日数（日）		入室者数（人）		平均	
	月計		こども	おとな		
4月	22		71	80	151	6.9
5月	30		153	169	322	10.7
6月	24		99	104	203	8.5
7月	31		175	187	362	11.7
8月	31		361	316	677	21.8
9月	19		166	179	345	18.2
10月	29		146	145	291	10.0
11月	24		142	156	298	12.4
12月	17		35	32	67	3.9
1月	29		56	58	114	3.9
2月	17		83	81	164	9.6
3月	9		74	80	154	17.1
計	282		1,561	1,587	3,148	11.2

「キッズルームおはなしかい」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、工作、お絵かき、手遊びなどを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は当館サポートスタッフが担当した。

- (1) 2009年5月23日（土）10：00－12：00
参加者数：19人
- (2) 2009年6月27日（土）10：00－11：00
参加者数：6人
- (3) 2009年7月25日（土）10：00－11：00
参加者数：156人

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2008年8月20日（木）～8月24日（月）

実習指導：青森県立美術館職員等

実習生：13名

弘前学院大学文学部（1名）、武蔵野美術大学造形学部（1名）、札幌市立大学デザイン学部（1名）、女子美術大学芸術学部（1名）、富山大学芸術文化学部（1名）、東北芸術工科大学芸術学部（1名）、東北芸術工科大学デザイン工学部（1名）、京都造形芸術大学通信教育部（1名）、多摩美術大学美術学部（1名）、金沢美術工芸大学美術科（1名）、岩手大学教育学部（1名）、大妻女子大学文学部（1名）、八洲学園大学（1名）

プログラム

平成21年度博物館（美術館）学芸員実施日程

第1日 8月20日（木）

①オリエンテーション

- ・青森県立美術館の施設及び事業概要について

②館内見学

- ・展示室、WS、シアター、ショップ、カフェ、時遊館

③利用者対応

- ・美術館のホスピタリティー
- ・アンケートの活用

④実習日誌作成

第2日 8月21日（金）

①広報および情報発信

- ・ホームページの作成、広報戦略、ユビキタス

②展示・収蔵

- ・作品貸借の手続き

③作品保存・取扱い

- ・作品の保存管理と調書作成について
- ・作品の取扱い：日本画、油彩画、立体、写真

④展示・収蔵

- ・照明の種類と取扱い
- ・展示ケースの利用と取扱い

⑤実習日誌作成

第3日 8月22日（土）

①事業概要

- ・パフォーミングアーツの事業概要

②教育普及および市民参加

- ・サポートスタッフ活動 組織作り、プロジェクト参加

③教育普及①

- ・企画展こどもギャラリートーク参加

④展示・収蔵

- ・サイン計画
- ・展示解説パネル・キャプション作成

⑤教育普及②

- ・鑑賞支援
- ・ワークショップ企画
- ・パフォーミングアーツ活動「ドラマリーディング」鑑賞

⑥実習日誌作成

第4日 8月23日（日）

①作品収集・管理

- ・コレクションの形成
- ・作品のデータ管理

②教育普及

- ・企画展ギャラリートーク参加
- ・常設展示関連ワークショップ参加
- ・[演習] ワークショップの企画書を作ってみよう

③実習日誌作成

第5日 8月24日（月）

①展示・収蔵

- ・現代美術の展覧会
- ・展示構成、レイアウトのプランニング
- ・[演習] 展示構成をしてみよう

②実習日誌・報告書作成

情報システム

青森県立美術館ユビキタスシステム

当館は、来館者が固定された順路にとられることなく、大小様々の展示空間を探索しながら自由に作品を鑑賞することを特徴としているため、展示室は縦横につながっており、複雑な構造となっているものであるが、効率よく観覧したい、また、作品や作家についてもっと知りたい、といったニーズがあり、これに応えるものとして、「ユビキタスコミュニケーター」と呼ばれる情報端末を使って、展示室順路情報、作家・作品等の解説、館内案内等の各種情報を、音声・画像などにより受け取ることができるサービスを2007年11月より行っている。

利用者は当該システムの使用により、端末画面に自動的に表示される順路情報にそって展示室を進むことができるほか、端末操作により、各展示室における作家・作品の情報や美術館のイベント日程、カフェやショップの情報、周辺の交通案内等各種の情報を得ることができるものである。

- ・アンケート用無線LAN：1ヶ所
- ・アンケート用RFIDタグ（13.56MHz uコード）：1ヶ所

1 システム概要

ユビキタスシステムは、場所やものを識別する「uコード」(東京大学教授坂村健氏が提唱するコード規格)を用いて、展示室や通路の場所やモノに情報をくくりつける「ユビキタス空間場所情報システム」を活用している。

場所の識別には天井に設置した赤外線/無線マーカを、モノの識別にはRFIDタグを使用してuコードを発信する。情報端末は、そのuコードを受信して現在地やモノを識別し、そのときに適切な情報が、情報端末の画面及びヘッドホンを通じて、静止画・動画・音声またはテキストにより提供される、という仕組みとなっている。

2 システムの機能概要

- ・通路や展示室の出入口エリアをカバーした赤外線を端末が受信すると、順路及び展示室名が自動的に案内される。
- ・画面メニューに触れると、展示室情報や現在地、作家・作品の解説、美術館情報などのコンテンツを選択取得することができる。
- ・RFIDタグを端末が受信すると、端末の画面がアンケート用に切り替わる。
- ・回答したアンケート内容は無線LANによってサーバに送信される。

3 システム仕様等

- ・ヘッドホン付情報端末：50台（予備含む）
- ・赤外線マーカ設置数（uコード）：70ヶ所

資料

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：青木淳氏（県立美術館設計者）、奈良美智氏（本県出身アーティスト）、熊倉純子氏（東京芸術大学音楽学部准教授）

会議開催状況：

・第8回

開催日：平成21年11月12日（木）

会場：都道府県会館（東京都千代田区）

・第9回

開催日：平成22年3月24日（水）

会場：青森県立美術館

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成21年度

懇話会委員：

座長：一町田工（三内丸山応援隊長）

副座長：日沼禎子（ARTizan 世話人（ACAC 学芸員））

委員：中村泰子（三内西小学校長）

委員：毛内秀登（立佞武多の館館長）

委員：野坂佳孝（十和田市立法奥小学校教諭）

委員：橋本由貴子（フリーアナウンサー）

委員：藤川あきつ（青森県立美術館ファシリテーター）

委員：成田英久範（青森県立美術館サポートスタッフ）

委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

開催状況

・第1回

開催日：平成21年10月29日（木）

会場：青森県立美術館

・第2回

開催日：平成22年2月27日（土）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度①	21年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	81,063
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	2,430
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	83,493
企画展	シャガール展	192,918				
	縄文と現代展	14,894				
	工藤甲人展	1,680	10,950			
	旅順博物館展		30,065			
	舞台芸術の世界展		6,282			
	棟方志功・崔榮林展		4,156			
	寺山修司展			9,533		
	大ナポレオン展			46,609		
	小島一郎展			8,660		
	ウィーン展				36,884	
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)	
	馬場のぼる展				25,464	
	ラブラブショー				5,160	
	企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	2,706
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	△2,155
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	△1,987
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	△3
	展示関係プログラム			625	1,526	901
	その他	500		464	266	△198
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	△3,442
パフォーマンスアート	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	△183
	ダンス			1,419	1,089	△330
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	376
	映画	975	1,954	1,584	685	△899
		パフォーマンスアート計	4,704	4,246	6,102	5,066
貸館		10,568	26,481	194,807	104,625	△90,182
図書館		2,552	7,727	12,910	10,012	△2,898
キッズルーム			2,850	3,690	3,127	△563
	合計	456,273	202,594	412,914	400,992	△11,922

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成21年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	47,764	使用料及び手数料	183,085	職員費	人件費
	2,000	国庫支出金			
	5,183	財産収入			
	52,903	繰入金	451,847	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	71,542	諸収入			
	560,959	一般財源	105,419	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
合計	740,351		740,351		

平成21年度 一般会計決算額

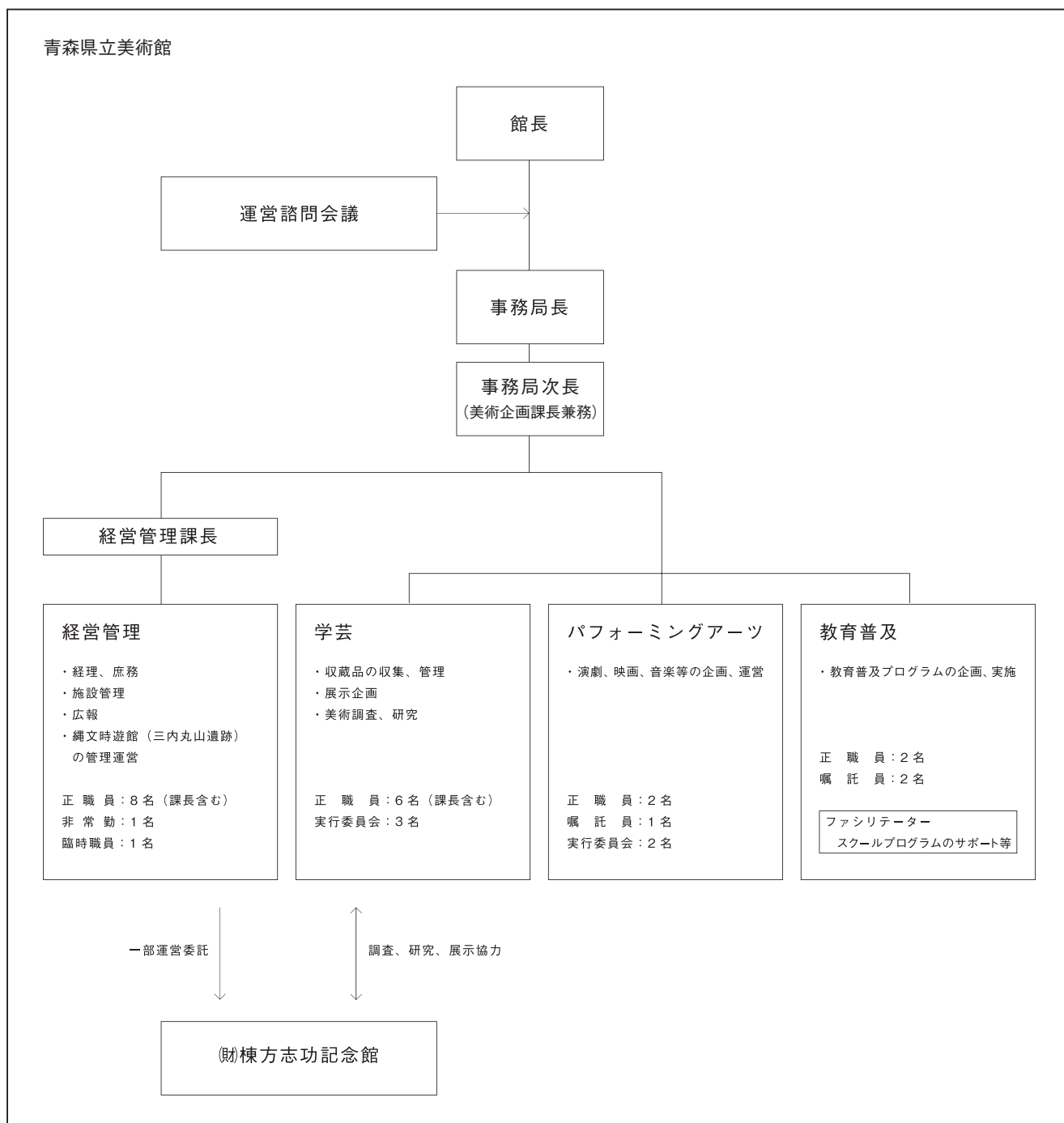
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	48,086	使用料及び手数料	182,226	職員費	人件費
		国庫支出金 (注)			(注) 国庫支出金 (工事請負費) を H22 年度に繰越
	5,182	財産収入	440,883	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	52,513	繰入金			
	71,423	諸収入			
	540,152	一般財源	94,247	公園管理費	青森県総合運動公園管理費、芸術パーク管理費
合計	717,356		717,356		

組織

- 県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。
- 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館）との一体運営を行っている。
- このために館長の下、県職員19人、嘱託員及び臨時職員5人の計25人が美術館運営にあっている。このほか、企画展実行委員会職員3名、パフォーミングアーツ部門の実行委員会職員1名が配置されている。

(平成21年4月1日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に關し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降 (一時間につき)
コミュニティギャラリーA	二千三百円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千円	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日になるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）

使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）青森県立美術館長（以下「館長」という。）の諮問に応じて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第5 諮問会議は、館長が招集する。

2 館長は、諮問会議の議長となり、会議を主宰する。

3 館長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成17年12月1日から施行する。

2 第4第1項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委嘱をした日から平成19年3月31日までとする。

附則

この要綱は、平成21年10月1日から施行する。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第2 懇話会は、10名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成19年9月13日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称 青森県立美術館
所在地 青森市大字安田字近野185
主用途 美術館
事業主体 青森県
設計管理 青木淳建築計画事務所
構造 金箱構造設計事務所
設備 森村設計
音響 永田音響設計
土系素材 I N A X
施工 竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体
強電 きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体
弱電 奈良・高田特定建設工事共同企業体
空調 高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体
衛生 芝管・五戸特定建設工事共同企業体
昇降機 三菱電機株式会社
面積
 敷地面積：129,536.37 m²
 建築面積：7,228.72 m²
 延床面積：21,222.19 m² (美術館部分16,355.03 m²)
 地下2階：4,736.15 m²
 地下1階：3,965.11 m²
 1階：5,339.02 m²
 2階：2,403.81 m²
 3階 (機械エリア)：4,778.10 m²
 建ぺい率：5.58 %
 容積率：16.38 %
階数 地下2階 地上3階
寸法
 最高高：16,160mm
 軒高：15,150mm
 階高：地下2階 2,300 - 19,000mm
 地下1階 2,500 - 7,500mm
 1階 2,700 - 11,000mm
 2階 2,500 - 4,000mm
 主なスパン：3,000mm × 3,000mm
地域・地区 都市計画区域内 市街化区域
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 (地下1・2階)
 鉄骨造 (地上1 - 3階)
杭・基礎 杭基礎 (PHC-ST 杭) 600φ・700φ、
 (PHC) 600φ

空調設備 A H U ・定風量単一ダクト方式、一部 F C U、
 空冷パッケージ方式
熱源：冷温水発生機 (320USRt、280USRt)、
 加湿用蒸気ボイラ

※ 温湿度設定予定数値

	温度	湿度
一時保管庫内 (夏期)	22 度 ±1 度	55 % ±3 %
企画展示室 (夏期)	24 度 ±2 度	55 % ±5 %

照明設備 スポットライト及び蛍光灯 (調光設備・紫外線
 カット付)
照度：50 - 200 ルクス
消火設備 屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス (窒
 素) 消火、加圧式粉末 ABC 消火器
設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、
 スプリンクラー設備 (開放型、予作
 動型)、窒素ガス消火設備 (一部展
 示室、収蔵庫、熱源機械室)
排煙設備 機械排煙設備 (3 系統)
防犯設備 開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場
 内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを
 設置し、監視室にて監視。夜間は機械警備、た
 だし、展覧会開催中は有人警備でも対応。
衛生設備 給水：受水槽 (50t) + 加圧給水ポンプユニッ
 ト方式
 給湯：局所式 (電気温水器)、ガス湯沸器 (厨房)
 排水：ポンプアップ排水
電気設備 受電方式：高圧電力 3 φ 3 W 6,600 V 1 回
 線受電 (業務用電力 + 融雪電力)
設備容量：2,650kVA
契約電力：700kW
予備電源：非常用発電設備 500kVA、直流電
 源設備 (非常照明用)
設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設
 備、動力設備、電灯設備、展示調光
 設備、避雷設備、外構設備、電話設備、
 情報設備、インターホン設備、誘導
 支援設備、テレビ共同受信設備、監
 視カメラ設備、機械警備設備、放送
 設備、中央監視設備、外構設備、演
 出照明設備 (シアター、スタジオ)、
 演出音響設備、映写設備 (シアター)
昇降機 荷物用エレベータ 1 台 乗用エレベータ 8 台

設計期間 1999年12月－2002年3月
 施工期間 2002年12月－2005年9月
 外部仕上げ 屋根：ウレタン塗膜防水
 外壁：煉瓦＋アクリルシリコン塗装
 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
 内部仕上げ 展示室（白）
 床：カラーモルタル金こて押え $t=20\text{mm}$ ＋防塵防汚塗装
 壁：合板 $t=15\text{mm} \times 2$ ＋プラスターボード
 $t=12\text{mm}$ ＋全面寒冷紗パテ処理＋EP
 天井：合板 $t=12\text{mm}$ ＋プラスターボード
 $t=9\text{mm}$ ＋EP
 展示室（土）
 床：タタキ $t=50\text{mm}$
 壁：版築 $t=200\text{mm}$
 天井：合板 $t=12\text{mm}$ ＋プラスターボード
 $t=9\text{mm}$ ＋EP
 コミュニティホール
 床：クリフローリング $t=15\text{mm}$
 壁：プラスターボード $12\text{mm} \times 2$ ＋スタッコ
 天井：人工木材ローズウッド練り付け
 シアター
 床：フェルト $t=8\text{mm}$ ＋カーベット $t=7\text{mm}$
 壁：プラスターボード $t=15\text{mm}$ ＋グラスウール
 ボード＋エキスパンドメタル $t=6\text{mm}$
 （樹脂コーティング処理）
 天井：グラスウール＋プラスターボード
 $t=15\text{mm}$ ＋エキスパンドメタル $t=6\text{mm}$
 （樹脂コーティング処理）
 オフィス
 床：システム根太ユニット $600\text{mm} \times 600\text{mm}$
 ＋コンパネ $t=12\text{mm}$ ＋クリフローリング
 $t=15\text{mm}$
 壁：プラスターボード $t=12\text{mm} \times 2$ ＋EP
 天井：プラスターボード $t=12\text{mm}$ ＋吸音板
 $t=12\text{mm}$ ＋EP

アクセス

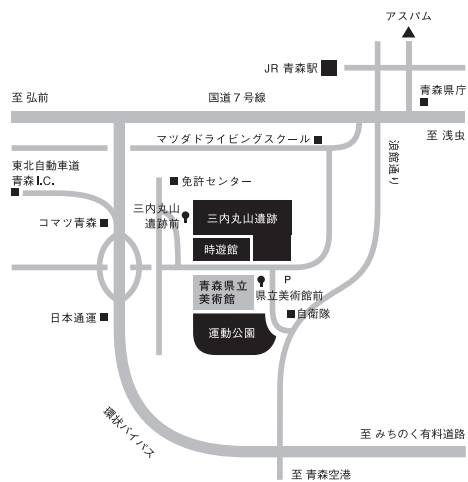
JR 青森駅から車で約20分

青森空港から車で約20分

東北縦貫自動車道青森ICから車で約5分

市営バス青森駅前2番バス停から免許センター行き

「県立美術館前」下車（所要時間約20分）



青森県立美術館年報

平成21年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2011年12月